

きらめき活動 2024

県民活動助成事業報告書



アフリカの太鼓「ジェンベ」を体験



小中学生も参加して景勝地の保全



戦争体験談に熱心に耳を傾ける



親子が安心して安全に過ごせる居場所を提供

公益財団法人

山口きらめき財団

YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

はじめに

山口きらめき財団では、多くの皆様からいただいた寄付金等を活用し、団体の自立や地域課題の解決に取り組む県民活動団体に対する助成事業（助成金の交付）を実施しています。

この助成事業により、県内各地域の幅広い分野で世代を超えた多くの方々による熱意あふれる活発な活動が展開され、地域の活性化や地域の絆づくりに大きく貢献しています。

この冊子は、令和6年度に当財団が助成した45団体の活動をまとめたものです。

活動団体をはじめ、県民の皆様には是非ご覧いただき、今後の活動の参考として広くご活用いただければ幸いです。

令和7年（2025年）11月

「きらめき活動2024」について

- ・団体の代表者名、構成員数、問い合わせ先は、令和7年10月現在のものです
- ・「活動現場レポート」は、当財団職員が訪問した活動の現場の状況を掲載しています



目次

2024年度 きらめき活動助成事業助成金交付団体



◆自立支援ゆめプログラム

小児がん親の会「あしたばの会」	…	1
岩国くらす隊未来係	…	2
一般社団法人 七福	…	3
いわくにだれでもジェンベ	…	4
ミモザプロジェクト	…	5
特定非営利活動法人 フリースペースコティ	…	6
スマホ社会を考える会	…	7
愛着子育てサポートの会	…	8
子ども食堂 とまと	…	9

◆課題解決支援はなプログラム

Mint	…	10
山口DARC	…	11
Kikkake	…	12
高齢社会をよくする下関女性の会 (ホーモイ)	…	13
檜原ゆうあい会	…	14
大井地区連絡協議会	…	15
「湯けむりのまち やさしさ湧いています」 製作委員会	…	16
伊陸歴史会	…	17
琴石サラブレッドパーク	…	18
地域共生社会を考える会	…	19
ふれあいの森なんでも工房	…	20
紙人形劇団ネリノ	…	21
明日を紡ぐ大地の会	…	22

萩浴衣音楽フェス実行委員会	…	23
藍と愛の会	…	24
周南市安田の糸あやつり人形芝居保存 会	…	25
スポカルクラブSGC	…	26
宇部市地球温暖化対策ネットワーク	…	27
さくらの守人	…	28
阿武の松原のみどりを守る会	…	29
いわくに竹の会	…	30
Seeds	…	31
せとうちブループロジェクト実行委員会	…	32
一般社団法人 やまぐちGISひろば	…	33
幸坂総合教育研究所	…	34
やない平和を語る会	…	35
特定非営利活動法人 山口女性サポート ネットワーク	…	36
NPO法人 おひさま生活塾	…	37
NPO法人 森と海の学校	…	38
こころのほし～完璧な親じゃなくていい。 もっと子どもの心の声を聴いて～	…	39
どっとこみゆ	…	40
やないしらかべ『絆』ねっとわーく	…	41
みんな食堂アルトス	…	42
猫幸の家	…	43

◆文化芸術支援つむぎプログラム

田中絹代メモリアル協会	…	44
The beginning of the art	…	45

団体名 小児がん親の会「あしたばの会」 (山口市)

代表者名	徳田 耕一郎	団体の目的
構成員数	16人	<ul style="list-style-type: none"> 小児がん患者と親の相談支援、啓発活動、ピアサポート、学習支援等を小児科医師等と連携しながら実施する
設立	2023年9月	
問い合わせ先	ashitaba.yamaguchi 2023@gmail.com	

事業名 あしたばの会スタートアップ

事業の目的

- 小児がん患者や保護者に対するピアサポート活動とともに、会の活動を啓発し、支援を得るためのレモネードスタンドを実施する

事業の内容

- レモネードスタンド 啓発活動

開催日	① 7月28日(日) ② 9月29日(日) ③ 11月17日(日) ④ 2月15日(土)	開催場所	① 山口県立大学 ② ルルサス防府 ③ 白石交流センター ④ 新山口駅前3階広場	参加者	延べ 500人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトル募金、ポケットティッシュ配布による啓発活動 				

事業の成果

- 活動を通して、小児がんが周知されていないことがわかった
- 疾患を抱える方やその家族から暖かい言葉と寄付をいただき、多くの方と同じ悩みを共有できることがわかった
- 今後は、レモネードスタンドを活動の中心として、患者家族の支援と大学病院小児科棟への応援バック(付き添いに必要な物品)支援に取り組んでいきたい

活動現場レポート

レモネードスタンド

(アメリカから広がった「小児がん支援の輪を拡げていこう」という取組)

日時：7月28日(日) 10:00~12:00 / 場所：山口県立大学(山口市)

- ◆ がん患者のピアサポートを行っている「ポポメリー」と連携し、会の活動を広く周知する目的で「レモネードスタンド」が開催されました。山口県立大学の「ソーシャルワーク演習」の授業とコラボして行われており、会場の提供と、学生の参加がありました。
- ◆ レモネードに見立てた市販のドリンク(レモン味やレモンにちなんだもの)を参加者に購入してもらうという方法が進められましたが、会の子どもたちが呼びかけをしてドリンクを手渡す姿がとても印象的でした。



団体名 岩国くらす隊未来係 (岩国市)

代表者名	村井 優	団体の目的
構成員数	5人	<ul style="list-style-type: none"> 岩国くらす隊未来係の活動(事業)を行うことにより、参加メンバー並びに岩国市民へ岩国への誇りを感じてもらい、将来を担う人材育成を行う
設立	2023年6月	
問い合わせ先	iwakuniclass@gmail.com	

事業名 岩国くらす隊未来係街づくりムーブメントプロジェクト

事業の目的

- やみくもにイベントを実施するのではなく、活動を通じて何を伝えたいかを整理し、若者世代の目線で多くの人たちが関わりたいと思ってもらえるようなコンテンツにより、積極的に参加してもらえる環境をつくる
- 古くから街づくりに取り組んでいる世代が、若い世代の取組をサポートできる仕組みをつくる

事業の内容

- 当会のロゴ作成、SNS運用開始(7月)
- パンフレットの制作(12月)
当会のメンバーの個性や想いを知ってもらうツールとしてパンフレット作成、配付
- 「人とつながりてくらすを楽しむ」(基調講演、座談会)

開催日	2月12日(木)	開催場所	コミュニティハウスF+A	参加者	23人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 身近なアニメ映画を題材に「まちづくり」とは何かを考える 過去の事例を紹介し、人との関り、想いの大切さを伝え、コミュニティの場の必要性、関わり方を考えるきっかけとする 				

○You Tube開設(2月)

岩国市内の飲食店や当会の活動、岩国マイクラ部の活動を紹介する動画等を制作

事業の成果

- アットホームな空間で開催した講演会は、参加者との距離が近く、意見を気軽に交わすことができ、よりつながりを深くすることができた
- ロゴの作成やSNS、YouTubeの配信により、多くの方に活動内容を具体的に知ってもらうことができた

活動の写真

▼ 会主催のまちづくりに関する講演会



◀ 助成金で製作された会の紹介リーフレット

団体名 一般社団法人 七福 (田布施町)

代表者名	松村 瞳	団体の目的
構成員数	4人	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある方々の文化芸術活動を推進することを目的として、創作活動を通じた障がい者福祉サービスのサポート、アートレンタル等を通じた障がい者が制作した商品の流通づくりなどの事業を実施する
設立	2024年4月	
問い合わせ先	freedom_0920@hotmail.com	

事業名 創作活動を通じて生きがいを感じ働くことができる地域支援の新しい環境づくり

事業の目的

- 障がいのある方々が生きがいをもって働くことができる環境づくりを進めるため、地産地消のアートレンタルへの作家登録により、アートの普及活動を通じて収入支援につなげるとともに、アートマルシェを行い、市民参加型芸術祭への取組につなげる

事業の内容

- 交流勉強会

開催日	5月20日(月)	開催場所	周南公立大学	参加者	23人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 「アートをどう活用できるか」 ご当地フォント、市民芸術祭PR動画鑑賞 「対話型アート鑑賞 脳が脱皮する美術館」 作品を鑑賞、想像したことを語りあう場の提供 				

- アーティストトークショー、アートマルシェ、ワークショップの開催

開催日	2月26日(水)	開催場所	こだまテラス	参加者	38人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 作品展示、トークショーにより交流の場を設け、理解を深める アートストリート構想お披露目会 				

事業の成果

- アートレンタル、アーティスト登録に取り組み、レンタル契約約30社、アーティスト13人となった
- 企業や地域の方々とともに取り組む環境作り、プラットフォームの体制、創作・活動支援、障がいのある方の描くアートの魅力と収入支援の基盤を作ることができた
- 地域参加型の芸術祭へとつなげることができた

活動現場レポート こだまアートストリートキックオフイベント 日時：2月26日(火) 13:30~15:30/場所：こだまテラス(周南市)

- ◆今回のイベントは、七福art(一般社団法人化前の団体)設立1周年イベントと2026年3月開催予定の「こだまアートストリート」のキックオフイベントを兼ねて実施されました。
- ◆最初に松村代表の挨拶の後、福島治東京工芸大学名誉教授の進行で七福登録アーティストを交えてのトークショーが行われ、それぞれの作品にかけた思いや創作のきっかけなどを話されましたが、「当会と出会って、人とのつながりや行動範囲が広がり、自分の世界が広がった」とのことでした。
- ◆続いて、実際にアートをレンタルしている企業による活動への期待などについての説明や、パラアートイベントの先進事例の報告があり、参加者は皆、パラアートの力の大きさに感心した様子で熱心に耳を傾けていました。



▲ トークショーの様子

団体名 いわくにだれでもジェンベ (岩国市)

代表者名	藤田 陽子	団体の目的
構成員数	6人	<ul style="list-style-type: none"> 西アフリカの打楽器ジェンベを通じた国際交流、異文化理解の促進と会員同士の交流 練習会など、誰でも気軽にジェンベの魅力体験ができる場づくり 技術を向上し、地域イベントなどへ積極的に参加し、ジェンベの魅力を広める
設立	2023年7月	
問い合わせ先	daredjembe@gmail.com	

事業名 アフリカの太鼓を地域のチカラに！ジェンベ大交流会

事業の目的

- 活動内容の周知や会員募集に向けてホームページを作成する
- 県内各地で活動している団体を招いた交流会を主催することで、主体的な活動力を養う
- 技術や知識をより深め、地域イベントに参加し、ジェンベ演奏による地域活性化に貢献する

事業の内容

- ホームページの作成、運用
- アフリカの太鼓を地域のチカラに！ジェンベ大交流会

開催日	8月11日(日) ～12日(月)	開催場所	山口県由宇青少年自然の家 ふれあいパーク	参加者	34人
内容	<p><1日目> ジェンベ体験講習会(ギニア人プロ奏者の指導で、演奏技術、歴史、ダンスを学ぶ 意見交換会(参加団体リーダーを中心に活動状況等を発表、共有)</p> <p><2日目> 大交流会(講習会参加者による演奏披露、県内各地で活動する団体の演奏)</p>				

事業の成果

- ホームページを閲覧者からの参加申し込みや問い合わせがあり、情報発信力を高めることができた
- 大交流会開催という目標に向かって会員が協力することで結束力の向上、自信につながった
- 県内外の遠方からも老若男女の参加があり、新たなつながりができた

活動現場レポート

アフリカの太鼓を地域のチカラに！ジェンベ大交流会

日時：8月11日(日) 13:30～／場所：山口県由宇青少年自然の家(岩国市)

- ◆西アフリカの打楽器ジェンベを通じた国際交流、文化交流を図ろうと、ジェンベ大交流会が2日間にわたって山口県由宇青少年自然の家で開催されましたので、初日の午後のワークショップに参加しました。
- ◆参加者は、直前の日向灘の地震の影響等で急遽不参加になった方もおられたようですが、島根県からの参加も含め、約30人と関心の高さが伺えました。
- ◆世界的なパーカッションスト、エビゾ・バンクーラさんの指導で、まず、独特のリズムを拍手と足踏みで覚えた後、実際に皆でジェンベを叩きました。そして、最後は全員のりのりでダンスを踊り、大変盛り上がった交流となりました。



団体名 ミモザプロジェクト (下関市)

代表者名	なかむらみゆ	団体の目的
構成員数	5人	<ul style="list-style-type: none"> 女性が元気なまちは街も元気!を合言葉に、国際女性デーの趣旨に賛同し女性活躍推進の場づくり等に関する活動を行うことにより、街を元気にする
設立	2023年2月	
問い合わせ先	nakamuramiyu33@gmail.com	

事業名 第5回 街角ミモザプロジェクト

事業の目的

- 国際女性デー(3月8日)に関連するイベントを通して女性のエンパワーメントとジェンダーの平等について学ぶ機会をつくる

事業の内容

- 国際女性デーに合わせて「第5回街角ミモザプロジェクト(夢を語ろう!実現しよう!)」を開催

開催日	3月8日(土)~9日(日)	開催場所	大丸下関店	参加者	400人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍応援特別講演会 講師:網野麻里氏(株)プライムコム代表取締役) 下関短期大学附属高等学校Sクラブスピーチ、華道部生けこみ 女性、高校生による自分の想いや夢を語るスピーチタイム フルートミニコンサート 学生着物ファッションショー 海峡ゆめタワーライトアップ(ミモザ色) 				

事業の成果

- 講演会では、女性の働き方やこれからの生き方について新しい知識や意識を提供し、学ぶ機会を作ることができた
- 今回は、女性や男女学生による、自分の夢やチャレンジのスピーチを実施し、参加者からも会場からも好評だった
- 多くの女性や学生たちがまちに関われる機会を創出できた

活動現場レポート 街角ミモザプロジェクト
日時：3月8日(土) 10:00~17:30/場所：大丸下関店(下関市)

- ◆3月8日の国際女性デーに合わせて、第5回目となる「ミモザプロジェクト」が、「夢を語ろう!実現しよう!」をテーマに開催されました。会場では、国際女性デーを象徴する黄色い花「ミモザ」が飾られ、テーマに沿って約30のブースが出展され多くの人で賑わっていました。
- ◆(株)プライムコム代表取締役網野麻里さんの特別講演では、子どもを抱えて仕事をするコツや気持ちの持ち方、自己肯定感を高め新たな一歩を踏み出す大切さなどについて話されました。
- ◆また、「一人ひとりが輝くスピーチタイム」として、県内外で活躍している女性が自分の体験や思いを自由に語るコーナーもあり、この日は様々な分野の15人が登壇され、はつらつとスピーチされていました。

一人ひとりが輝くスピーチタイム ▶



▲ 網野麻里氏の講演



団体名 特定非営利活動法人 **フリースペースコティ** (下松市)

代表者名	楠 恭子	団体の目的
構成員数	13人	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの個性を尊重し明るい未来へ羽ばたくための安心安全な居場所・サードプレイスを提供すること
設立	2024年2月	
問い合わせ先	freespace.koti@gmail.com	

事業名 **フリースクール、安心安全でインクルーシブなサードプレイス**

事業の目的

○フリースクール活動を充実させ、活動内容や情報を必要な方に届くよう啓発ツールを拡充させる

事業の内容

- フリースクール事業(県子育てファンド助成金で実施)
学校に行きづらい子どもの安心・安全でインクルーシブな居場所づくり
月曜日～土曜日(水曜日休み) 10:00～15:00
- 子育て支援事業(毎週火曜日)
未就園児や子育て中の母親が集まれる場所、ペアレントトレーニングを開催
10:00～11:30
子ども・地域食堂
11:30～13:00
- 体験活動事業(毎週金曜日)
そうめん流し、スイカ割、餅つき、凧揚げ、工作教室など
- 地域協働活動事業(第1土曜日)
地域の商店の方と共にイベント開催、子育て無料相談やワークショップなど

事業の成果

- 年間を通して事業を実施することで、子どもたちや保護者の居場所を作り、相談を聞き、支援することができた
- 引きこもりなどの相談を受けた際には、専門機関と連携し、支援を継続できている
- 地域の商店や企業と連携して活動することができた
- 子ども家庭庁の「第三の居場所づくり事業」の拠点となれるよう活動を展開していきたい

現場活動レポート 利用する子どもたちの保護者対象ペアレントトレーニングセッション
日時：12月12日(木)13:00～14:30／場所：フリースペースコティ (下松市)

- ◆当会は、築130年の古民家を活用して子どもたちが自分らしく活動できる居場所(サードプレイス)を作る活動をしており、訪問日は、発達障害や自閉症等、子育ての中で困りごとを持つ保護者を対象としたペアレントトレーニングセッションが開催されました。
- ◆2回目となる今回は、前回の振り返りをしながら、好ましくない行動を子どもがとった場合の対応について学びました。
- ◆発達障害の子どもたちの行動などについて参加者から積極的な意見が出され、それに対して共感したり、コメントしたりして和気あいあいとした雰囲気が進められましたが、皆さん真剣に学ばれ、それを生活に取り入れようとする意欲を感じました。



2グループに分かれて意見交換 ▶

団体名 スマホ社会を考える会 (下関市)

代表者名	金原 洋治	団体の目的
構成員数	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマホ育児から始まるスマホ依存症予防のための啓発活動 ・ 親子の健全な関係構築を促しスマホに頼り過ぎない育児ノウハウを広めていく
設立	2024年1月	
問い合わせ先	kiyoe.yoshimizu@gmail.com	

事業名 スマホに頼り過ぎない育児提案のための啓発活動

事業の目的

- プレイセラピー(PCIT)の認知度向上
- スマホ育児に対する危機意識の向上

事業の内容

- スマホを置いて、親子で楽しく遊ぼう!

開催日	①6月23日(日) ②10月6日(日)	開催場所	①②しものせき環境みらい館	参加者	①40人 ②15人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児とその親子に対してスマホに頼らない遊びの提案(医師、作業療法士) ・親子で楽しめる遊びの提案と実践(保育士、作業療法士) 				

- 子どもと大人の絆を深めるCARE programスキルを学んで使おう!

開催日	3月2日(日)	開催場所	生活介護サービス事業所 だいち	参加者	76人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとより良い関係を築くときに大切な養育のスキルを体験的に学ぶことができる、トラウマインフォームドな視点から生まれたペレンティングプログラムについて専門心理士から学ぶ 				

事業の成果

- スマホに頼らない遊びの楽しさ、可能性について啓発できた
- スマホ育児の危険性について、医師から直接認識を広めることができた
- 「禁止する・質問する・命令する」大人主体のコミュニケーションではなく、子どもの目線に立って「具体的にほめる、繰り返す、行動を言葉にする(見守っているよ、注目しているよが伝わる)」などを実践したコミュニケーションを展開することで良好な親子関係が構築されることを伝えることができた

現場活動レポート スマホを置いて、親子で楽しく遊ぼう!
日時: 6月23日(日)10:00~12:00/場所: しものせき環境みらい館(下関市)

- ◆当会は、小児科医師である石本氏が、検診会場で1歳半の子どもがスマホを扱っている様子に気づき、幼少期からのスマホ使用の危険性を啓発するための絵本を作成したことから活動をスタート。
- ◆この日は、第1回目ということで、「スマホを置いて、親子で楽しく遊ぼう!」と題して、未就学児の親子を中心にワークショップが開催されました。
- ◆最初に石本医師の挨拶の後、同じくメンバーである医師や作業療法士により子どもの遊びや運動について説明がなされました。
- ◆その後、日頃の保育で行っているスキンシップや遊びを親子で実践するとともに、最後は、全員が参加してダンスを踊って締めくくり、大変盛り上がりを見せていました。



▲ 作業療法士の説明

◀ ふれあい遊び

団体名 愛着子育てサポートの会 (萩市)

代表者名	佐々木 澄江	団体の目的 ・ 0～3歳までの親子を対象とした、安心・安全で子どもの探索活動を促す子育て(愛着子育て)ができるように親子の居場所を提供し、愛着の大切さを家庭と地域に広げる
構成員数	7人	
設立	2024年3月	
問い合わせ先	aityakukosodate@ymail.ne.jp	

事業名 子育て支援の立ち上げ

事業の目的

○ 資金調達(資金面)の解決の糸口を探しつつ、親子の愛着形成に必要な、安心・安全で居心地の良い子育て支援の場所をつくり、運営する

事業の内容

○ COCOIRU(ここいる)の開催

開催日	7/29、9/30、10/28、11/25、12/9、12/23、1/20、2/17、3/17 (月曜日)	開催場所	萩市市民活動センター結	参加者	延べ 177人
内容	・ 0～3歳の親子を対象に、自由遊び、体操、ふれあい遊び、絵本の読み聞かせ、相談などを行い、親子の愛着形成に必要な安心・安全な空間を提供				

事業の成果

- 親子が安心して安全に過ごせる居場所をつくり、子育て支援の場所として定着することができた
- 親同士の情報交換や相談により、子育ての行き詰まり感を緩和することができた
- ファミサポなどへの申し込みや公的な機関への相談を勧める機会を持つことができた

現場活動レポート 親子の居場所 COCOIRU
日時：12月23日(月)10:30～／場所：萩市市民活動センター結 (萩市)

- ◆ 今年度6回目となる、親子の居場所「COCOIRU」が開催されましたので訪問しました
- ◆ 当日はクリスマス前ということもあり、会場は、クリスマス仕様に飾り付けされており、子どもたちにはクリスマスプレゼントが配られました。
- ◆ 自由遊びの後、母親のための体操や母親と子どものふれあい体操、絵本の読み聞かせ、全員による記念撮影などがありました。
- ◆ ゆったりした雰囲気の中で、保育経験者である佐々木代表による相談やアドバイスもあり、参加された親子は皆楽しく過ごしている様子が窺えました。



▲ 自由遊び



▲ ふれあい体操



▲ 絵本の読み聞かせ

団体名 子ども食堂 とまと (岩国市)

代表者名	河上 純子	団体の目的
構成員数	6人	<ul style="list-style-type: none"> 様々な環境下にある子どもたちに、安心・安全な食事と居場所を定期的に提供することで、少年少女の健全な心身の育成に貢献する
設立	2022年4月	
問い合わせ先	corochan0418@live.jp	

事業名 笑顔いっぱい 子ども食堂 ～人としての豊かさを提供する為に～

事業の目的

- 一人親家庭を対象に、月2回の子ども食堂を運営する
- 老朽化したり不足している調理器具を購入し、増え続ける需要に対応する

事業の内容

○子ども食堂開催(月2回)

開催回数	合計 19回	開催場所	子ども食堂とまと
内 容	5月14日 弁当 83食		5月28日 弁当 74食
	6月11日 弁当 69食		6月25日 弁当114食
	7月 9日 弁当122食		7月23日 会食20人 弁当170食
	8月13日 会食 18人 弁当85食		8月29日 会食22人 弁当119食
	9月10日 弁当191食		9月24日 弁当221食
	10月 8日 弁当181食		10月22日 弁当214食
	11月12日 弁当202食		
	12月23日 オードブル(21個45人分)		12月24日 オードブル(48個114人分)
	1月14日 弁当200食		1月28日 弁当200食
	2月25日 弁当210食		
	3月10日 弁当208食		

事業の成果

- IHクッキングヒーターを購入し、コンロ4口から6口になり、調理の効率化を図ることができた
- 新しく購入したスチームオーブンレンジは、複数料理の同時温め機能により、盛りつけ後に温めて提供できるようになった

活動の写真

▼ 子ども食堂の様子



ミント

団体名 **Mint** (下関市)

代表者名	柴田 久美	団体の目的
構成員数	11人	・ 年齢問わず健康に関わる問題の改善や解決をはかり 個々に寄り添いサポートする
設 立	2022年2月	
問い合わせ先	come-care2011@outlook.jp	

事業名 **お口から健康へ**

事業の目的

- 健康に関わる知識や意識の向上、歯科疾患の予防や口腔機能の獲得・保持等の問題解決
- 遠出が困難な高齢者のもとに足を運び講話を通してお口の健康を周知する
- 心身ともに健やかで心豊かな生活を送り、健康寿命を延ばすため、市民一人ひとりに寄り添うサポートを実施する

事業の内容

○歯科衛生士による「健ロイベント」

開催日	①6月11日(日) ②10月1日(日)	開催場所	①②西市公民館	参加者	① 10人 ② 20人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域などの行政の届きにくい方を対象に、歯科衛生士の資格を持つメンバーが、歯科保健指導や口の体操等の口腔の健康に関する情報を届けた ・ 講話・健口体操、口を使ったレクリエーション等を実施 				

○健口講話

不定期に豊田地区等の高齢者や乳幼児期の親子の集まり等で開催

(15回/参加総数545人) お口のお話、健口体操、口腔機能測定、質疑応答、アンケート

- ゆめ花マルシェへの参加(10月26日27日/きらら博記念公園/相談50人) 歯科相談の実施や展示

事業の成果

- 健康意識を高め、口腔ケアの重要性を伝えることで、健康意識の向上、口腔健康の改善、地域コミュニティの強化、長期的な健康リスクの軽減等に貢献することができた

活動現場レポート

健口講座

日時：6月11日(火) 10:00~/場所：下関市西市公民館(下関市豊田町)

- ◆当会は、旧豊田町(過疎地域)を中心に活動を展開しており、当日は、西市公民館で地域の高齢者を対象とした健口に関する出前講座が行われました。
- ◆まず、歯科衛生士である会のメンバーから「お口の健康はなぜ必要なのか」について、パワーポイントを使ってわかりやすく説明されました。
- ◆その後、団体手作りのオリジナルグッズを使って、飲み込み機能、口唇を使った吸引機能、噛む機能、口の瞬発力をチェックするテストが行われました。
- ◆会場には個別相談コーナーが設置され、口腔ケアで気になること、歯磨きのやりかた、おススメの歯磨きグッズなども紹介されており、メンバーのマンツーマンの丁寧な対応に、参加者も大変喜ばれている様子でした。



▲ 口の瞬発力をチェック



◀ 歯磨きのやり方指導

団体名 **ダルク 山口DARC** (山陽小野田市)

代表者名	渡慶次 稔	団体の目的 ・ アルコール、薬物、ギャンブル依存症者の回復支援、社会復帰支援及び再発防止とその家族及び関係者の諸問題を解決するため、行政、医療機関、司法機関との連携を図り、よりよいネットワークを構築し、地域において健全で安心できる明るい社会を作っていく
構成員数	8人	
設立	2022年9月	
問い合わせ先	Yamaguchi-darc@outlook.jp	

事業名 **薬物問題啓発活動（フォーラム開催）・薬物問題で苦しむご家族・本人へのプログラムの提供**

事業の目的

- 依存症に苦しむ本人やその家族に、依存症は回復できる病気であるということの認知を拡げ、相談場所があることを知ってもらう

事業の内容

- 山口ダルクフォーラム・山口ダルク家族会立ち上げ記念フォーラムの開催

開催日	9月29日(日)	開催場所	不二輸送機ホール	参加者	175人
内容	・ 日本ダルク代表理事岩井喜代仁氏、山口県立こころの医療センター藤田実先生による講演				

- 山口ダルク家族会、家族会ミーティング、回復のプログラム等の開催
全国規模の講師を招聘し、家族ミーティング、参加型のプログラム、講座等を月一回のペースで開催

事業の成果

- 依存症に苦しむ家族からの相談や新たに家族会への参加があった
○ 山口ダルク家族会の会員と全国で同じ悩みで苦しむご家族との交流が持てた
○ 薬物問題で悩みを抱えたご家族に相談場所があるということを知らせる良い機会が持てた

活動の写真



記念フォーラム 岩井理事の講演 ▶

◀ 記念フォーラム 藤田副院長の講演



▲ 鳥取ダルク代表を招いての勉強会

団体名 ^{きっかけ} **K i k k a k e** (山口市)

代表者名	池田 恭子	団体の目的
構成員数	5人	<ul style="list-style-type: none"> • 学びの機会を提供することで、多くの人の「やってみよう!」のきっかけを作り、新しい価値の創造を図る
設立	2020年9月	
問い合わせ先	kikkakeyamaguchi@gmail.com	

事業名 **ハンドメイドをたのしもう!あみちく**

事業の目的

- コロナが落ち着いた後も人と人との交流が完全に戻っていない。特に子育て中の女性や高齢者等は孤立しがちであり、それを解消し、交流を求める人に「ハンドメイド」を共通の話題として集う場所を提供する

事業の内容

- あみちくさぼらんて

開催日	4月19日、5月17日、6月7日、6月21日、3月21日	開催場所	山口市市民活動支援センターさぼらんて	参加者	10人
内容	<ul style="list-style-type: none"> • 製作途中のハンドメイドを持ち寄って交流を深める 				

- あみちくマルシェ

開催日	2月8日	開催場所	山口市男女共同参画センター ゆめぽぽら	参加者	100人
内容	<ul style="list-style-type: none"> • ハンドメイド販売体験、市民活動団体紹介、ハンドメイドワークショップ、キッズフリマ 				

事業の成果

- ハンドメイドの講師をやりたい人と教わりたい人の橋渡しができた
- 孤立を解消したい人、他の人との交流を求める人たちが求める場所と環境を提供することができた
- ハンドメイド交流の場「あみちく」は平日昼間の開催では参加者が少なかったため、今後は開催時間や告知方法の検討をしたい

活動現場レポート ^{あみちくさぼらんて}
日時：6月7日（金）10：00～／場所：山口市市民活動センターさぼらんて（山口市）

- ◆「わいわいおしゃべりをしながら裁縫、編み物、ハンドメイド製作を楽しもう」をコンセプトに開催されている「あみちく」を訪問しました。
- ◆ 訪問した時には、参加がなく活動の様子を見学できませんでしたが、2月8日に開催された「あみちくマルシェ」では家族連れやハンドメイドを楽しむ方等約100人が参加され、ハンドメイドを楽しむきっかけとなるようなワークショップやキッズフリマ等でにぎやかな交流の場を作られたとのことでした。



▲ 子どもたちも夢中になって体験

団体名 高齢社会をよくする下関女性の会（ホーモイ）（下関市）

代表者名	田中 隆子	団体の目的 ・ 少子高齢化社会の現実を受け止め、すべての人たちが自立し、共に支え合い、安心して生きられる市民社会の創造をめざす
構成員数	20人	
設立	2003年5月	
問い合わせ先	takataka-09@jcom.ne.jp	

事業名 2024年市民福祉講座（全2回）

事業の目的

- 「地域の持続可能性に貢献する農業～安心安全な地産地消を目指すために～」をテーマに講演会を開催し、「スマート・テロワール(※)」を広く啓発していく
※県・地域の枠組み内で農家・加工業者・消費者が循環型システムを構築する構想

事業の内容

- 市民福祉講座1、2

開催日	① 7月27日(土) ② 11月30日(土)	開催場所	①②下関市社会福祉センター	参加者	①200人 ②130人
内容	①「世界で最初に飢えるのは日本～食の安全保障をどう守るか～」講師:鈴木宣弘氏 ②「地域農産物を食べて下関を元気にしよう!～農業を核とした豊かな地域づくり(スマート・テロワール)とは?～」講師:藻谷浩介氏				

事業の成果

- 現在の日本、山口県の食の現状を知り、食の安全保障を理解し守ることの大切さを啓発することができた
- 下関市から「スマート・テロワール」を導入することとしたとの回答を得ることができた

活動現場レポート

市民福祉講座2「地域農産物を食べて下関を元気にしよう!～農業を核とした豊かな地域づくり(スマート・テロワールとは?)～」
11月30日(土) 13:30～/場所:下関市社会福祉センター大ホール(下関市)

- ◆ 当会では、子ども食堂を開催していることもあり、今年度の市民福祉講座は、市民の健康を意識し、「地域の経済性」と「食の安全性」の二つを組み合わせた取組として、「スマート・テロワール」に着目して企画。
- ◆ 当日は、講師に日本総合研究所の藻谷浩介主任研究員を迎え、「地域農産物を食べて下関を元気にしよう」をテーマに講演が行われました。
- ◆ 藻谷氏からは、農業が日本で進んでいかない現状についてデータを使って話された後、山口県で全国でも珍しくスマート・テロワールが成功している事例も紹介されました。
- ◆ 最後に、30分ほど会場との意見交換が行われましたが、様々な人が積極的に発言され、大変盛り上がった講座となりました。



▲ 藻谷氏の講演

団体名 ^{ならわら} 檜原ゆうあい会 (下関市)

代表者名	吉川 俊雄	団体の目的
構成員数	30人	<ul style="list-style-type: none"> 下関市豊田町檜原地域を中心とした自然と歴史を生かした心豊かな、魅力ある地域づくりを推進し、交流人口を増やし、UJIターンを促進する
設立	2007年4月	
問い合わせ先	sbtt88@ybb.ne.jp	

事業名 「花と学びの郷」活用による青少年健全育成と地域活性化

事業の目的

- 中山間地域である檜原地区存続のための地域資源の再生・維持
- 児童・生徒の健全育成のための社会教育活動の推進

事業の内容

- イベント、講座、体験学習、環境整備など

開催	年間17回	開催場所	豊田町・檜原地区各所 シーモール等	参加者	延べ 712人
内容	梨の花ウォーク・歴史コース、親子茶道教室、花のまちづくり、草刈り作業、樹木観察、樹木札制作指導、市民活動フェスタでの活動展示・木工ワークショップ、水辺の観察会、久留米大学教員・学生地域研修受け入れ、藍染め体験指導、観月会・牛乳パックランタン、竹灯籠、ホタルかごなどの展示、豊田町文化産業まつりでの活動展示、木工ワークショップ、第5回親子茶道教室発表会、第19回郷土史講座、第6回諏訪山城と肥中街道探訪会、工作指導、肥中街道・学びの森の草刈り、整備作業等				

事業の成果

- 檜原地区とその周辺の里山や川、歴史街道、山城、神社等の地域資源を維持管理し、それを見守るから大人まで学びに活用することができた
- 市内外からの来場者が増加し、交流人口、関係人口が増加した
- 関係団体のネットワークを構築することができた
- 当会の取組、成果を「中山間活性化NARAWARA方式」として広く発信していきたい

現場活動レポート

第6回観月会 in NARAWARA

9月20日(金) 17:00~ / 場所: 豊田町檜原地区 正念寺周辺 (下関市)

- ◆ この日は、西市小学校放課後子ども教室の児童と檜原いきいきサロンの高齢者が牛乳パックで作ったランタンを展示する観月会が開催されました。
- ◆ 会場入り口などには手作りの竹灯籠、竹の蛍籠も飾られ、薄暗くなりだすと幻想的な雰囲気になりました。あいにくの曇天で月は見えませんが、参加者の皆さんは、和やかな雰囲気の中で談笑するなどして交流されていました。
- ◆ ランタンは学校や地域の方に作っていただき、会では会場の調整や当日の運営を行うなど、上手に役割分担し実施しており、今後も、連携・協働しながらより内容を充実していきたいとのことでした。

作ったランタンを確認する子どもたち ▶



団体名 大井地区連絡協議会 (萩市)

代表者名	永田 勝利	団体の目的
構成員数	54人	<ul style="list-style-type: none"> 大井地区の町内会等が協力して、健康で文化的な地域社会の建設を目指すとともに、郷土大井の人情豊かな伝統や古墳時代から続く輝かしい歴史、美しい自然を次の世代へ承継する
設立	2001年7月	
問い合わせ先	showri@haginet.ne.jp	

事業名 大井の魅力を発信しよう！

事業の目的

- 大井地区の特産品である甘夏や玉ねぎをPRするイベントを実施するなどして、地域の魅力を発信し、地域活性化、交流人口の増加を図る

事業の内容

- 大井において～甘夏 たまねぎとれとれ祭～

開催日	5月12日(日)	開催場所	大井公民館芝生広場	参加者	1,700人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●甘夏と玉ねぎの収穫体験(玉ねぎは、雨天のため、テントの中で根や葉を処理して袋詰め) ●大井のお宝マップや大井小中学校の児童生徒による「たまねぎ」研究発表 				

- 大井ふるさと祭り

開催日	11月3日(日)	開催場所	大井公民館芝生広場	参加者	900人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●玉ねぎや早生の柑橘などの特産品の周知と販売 ●大井への移住・よろず相談窓口 				

事業の成果

- 地域内外から多くの参加があり、地域の魅力を発信することができ、地域住民の自信にもつながった
- 中学生の参加により、若い世代の地域への帰属意識や愛着を深めることができた

活動現場レポート 第41回大井ふるさとまつり
日時：11月3日(日) 10:00～／場所：大井公民館多目的広場(萩市)

- ◆当会と大井ふるさとまつり実行委員会との共催で「大井ふるさとまつり」が開催されました。
- ◆ステージプログラムでは、よさこいや和太鼓演奏、ソーラン節などが披露されるとともに、合間の「民謡語り部タイム」では、地域の逸話・民話の朗読や紙芝居が行われ、子どもたちが熱心に耳を傾けていました。
- ◆公民館のロビーには、当会が5月に実施した「たまねぎとれとれ祭」で発表された、大井小中学生による「大井の玉ねぎ・夏みかんの魅力とよさ」をテーマにした学習成果が展示、披露されていました。
- ◆地域の老人会や議連婦人部等によるバザーや中学生によるボランティア参加もあり、地域を巻き込んだイベントになっていました。



▲ 民謡語り部タイム



テーマ学習成果「大井の玉ねぎ・夏みかんの魅力とよさ」▶

団体名 「湯けむりのまち やさしさ湧いてます」製作委員会 (長門市)

代表者名	田中 輝	団体の目的 <ul style="list-style-type: none"> 長門市俵山地区に残る伝統や文化、ありのままの姿を未来につなぐため、地域の事業者や住民との協働によって、日本語並びに英語版の短編映画を製作し、世界に地域の魅力を発信する
構成員数	7人	
設 立	2023年5月	
問い合わせ先	info@nagato-kanata.com	

事業名 短編映画「TAWARAYAMA」の聖地づくり

事業の目的

- 2023年に制作した、長門市俵山を舞台とした短編映画「TAWARAYAMA」をPRし、聖地づくり等を通してまちの魅力を発信する

事業の内容

- 映画上映会の開催

開催日	5月6日(月・祝)	開催場所	ルネッサながと	参加者	250人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 全4作品の上映、監督トーク 写真撮影パネルの設置 				

- インバウンド向けモニターツアーの実施

開催日	7月15日(月・祝)	開催場所	俵山温泉	参加者	30人
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 市内在住の外国人に、女将体験、まち歩き、そば打ちなど主人公と同じ体験をしてもらい、外国人目線でのブラッシュアップ 				

- PR活動

観光施設、飲食店、小売店などにポスターやチラシ、名刺サイズのカードを配布

- ガンパルフォーラムでの事例発表

2月8日(土)、パルトピアやまぐちで、県内の地域団体による事例発表・交流イベントで登壇し映画制作事業の事例発表やPR活動、意見交換

事業の成果

- 映画作品を通して国内外へ「俵山」の名称や地域資源の認知拡大を図ることができた
- 作中に登場するモノ・コトを実際に体験できるツアー商品の開発など、聖地巡礼を促す取組が展開できた

活動の写真



▲ 上映会での撮影パネルの設置



▲ インバウンド向けモニターツアー



▲ ガンパルフォーラムで事例発表

いかち
団体名 伊陸歴史会 (柳井市)

代表者名	山近 厚生	団体の目的
構成員数	35人	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと伊陸の歴史を学ぶとともに、他地域との関連及び日本史における位置づけを調べて、会員相互が学びあい、後世に伝承することにより、地域の活性化と地域文化の発展に貢献する
設立	2004年4月	
問い合わせ先	090-1010-4856	

事業名 柳井北地区活性化構想を実現

事業の目的

- 柳井市北地区を愛し、郷土に誇りを持ち、地域を活性化する人材を育てるため、3か年計画を実施することとし、1年目は、「地域歴史の資料作成と活用」事業を展開する

事業の内容

- 地域の魅力を探る歴史学習講演会

開催日	10月19(土)	開催場所	伊陸公民館	参加者	38人
内容	古代からの住居跡・室町の都も知れる「舟運により栄えた伊陸」				

- パンフレットの作成・配布
歴史会と地元のイベントの情報等を掲載したパンフレットを作成し、歴史講座やイベントで配布したり、野菜直売所や飲食店に設置
- ホームページの作成
 - ・これまでの研究内容や収集した資料のアーカイブ
 - ・当会のイベントや歴史に関する情報など

事業の成果

- 初めて開催した歴史講座は満席となり、多くの人に地元の歴史に関心を持ってもらい、知ってもらうことができた
- 定例学習会への参加者も10名程度増加した
- ホームページやパンフレットの作成過程で地域の団体と協議を重ねた結果、地域の活性化に向けて顔の見える関係性を持つことができた

活動現場レポート 伊陸の昔のお話を聞く会「舟運によって栄えた伊陸の歴史」
 日時：10月19日(土) 18:00~/場所：伊陸公民館(柳井市)

- ◆伊陸歴史会にとって、地域住民に向けた第1回目の歴史講座が伊陸公民館で開催されました。
- ◆講師に文化財の発掘調査を担当されている柳井市教育委員会社会教育指導員の松嶋幸夫さんを迎えて行われ、石器の時代から近代までの柳井市(主に伊陸地域)の様子を発掘調査や資料によって分かった事実とともにわかりやすく説明、考察されました。
- ◆この地域は、大内氏が栄えた時代には交易の中心として繁栄したとの話もあり、自分の住んでいる地域の歴史を初めて知るといふ方も多く、会場からは驚きや感心の声が上がっていました。
- ◆会場は、満席で急遽廊下にも席をつくるという盛況ぶりでした。



▲ 松嶋講師による講演

団体名 琴石サラブレッドパーク (柳井市)

代表者名	鹿嶋 凌駆	団体の目的
構成員数	14人	<ul style="list-style-type: none"> 引退馬の飼育と調教を通じ、多世代の方に馬に触れる、乗る、世話をするなどアニマルセラピーの機会を提供すると共に、牧場整備により支障木の伐採や荒廃地対策などの里山の環境整備を進める
設立	2022年1月	
問い合わせ先	hhhhrr924@yahoo.co.jp	

事業名 ふれあい活動の充足に関連した環境整備

事業の目的

○障害のある人、高齢者が安心して馬と触れ合うことができる環境づくりを実施するとともに、様々な体験メニューをそろえて希望者が楽しく馬と触れ合える機会を提供する

事業の内容

- 放牧地と焚火広場の整備
 - ・荒廃地の草刈り、整地、木柵の設置、薪ストーブ小屋の設置など
- ふれあいデーの開催

開催日	不定期 (月に10日程度)	開催場所	琴石サラブレッドパーク	参加者	1,500人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・馬とのふれあい(えさやり、引馬体験、乗馬体験、厩務員体験、調教の見学など) ・薪割り、焚火体験(薪ストーブ、ピザ窯を利用した調理など) ・琴石山登山道等の草刈りや支障木の伐採、花や野菜の栽培収穫体験 				

事業の成果

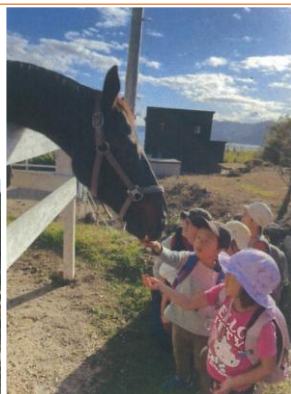
- ふれあい目的の来園者が中山間地域の問題に触れ、登山道の整備や園内の整備を一緒にすることで地域貢献の喜びを分かち合えた
- 木柵等の整備により、高齢者や幼児、障害のある方でも安全に安心して馬とふれあうことのできるようになった
- 薪ストーブにより、馬を見ながら野外体験できるメニューが増えたことで、滞在時間が長くなり、世代間の交流が増えた

活動の写真

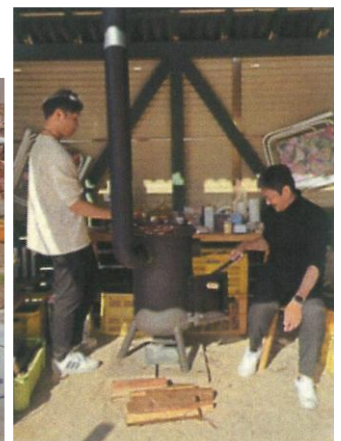
馬とのふれあい ▶



▲ 登山道整備



薪割り体験 ▶



▲ ストーブで調理

団体名 地域共生社会を考える会 (周南市)

代表者名	守本 友美	団体の目的
構成員数	9人	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係機関と連携し、地域の福祉課題解決を目指した活動をとおり、地域共生社会の実現に資する
設立	2023年4月	
問い合わせ先	morimoto@shunan-u.ac.jp	

事業名 「交流活動」を通じた地域づくり

事業の目的

- 多くの人が交流できる場を作るとともに、既存の交流の場への参加を通してお互いに助け合えるコミュニティとしての地域づくり、新たな地域の価値創造に地域住民が主体的に関わる機会を創出する

事業の内容

- 地域の交流活動への参加、児童養護施設入所児との野菜・花栽培体験など

開催日	開催場所	参加者	延べ人数
通年(22回)	高齢者団体、徳山総合支援学校、社会福祉協議会、ふれあい・いきいきサロン等		300人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の「ふれあい・いきいきサロン」等でスマホ教室、脳トレ教室を開催 ○周南市社会福祉協議会等でよさこい演舞、よさこい体験教室 ○徳山総合支援学校の親子遠足補助 ○児童養護施設入所者児との野菜・花栽培体験 等 		

事業の成果

- 多くの交流活動に参加することで、地域住民の様々な生活ニーズに気づくことができた
- 学校外での体験が少ない児童養護施設入所児とともに野菜や花を栽培する活動を通し、非日常的な体験機会を提供することができた
- 地域共生社会の基盤となるような、お互いが助け合い、ウェルビーイングを目指せる相互関係の構築が実現できた

活動現場レポート

ふれあい菜園での作業
 日時：11月12日(火) 13:00～
 会場：周南公立大学松下村塾模築下広場(周南市)

- ◆当会は、周南公立大学社会福祉学部の学生(守本ゼミ所属)で構成され、福祉施設や総合支援学校等と連携し、学生の視点から様々な社会貢献活動を実施されています。
- ◆訪問日は、学生8人で、初夏に施設の子どもたちと「ふれあい菜園」に植えた夏野菜を始末し、新たにビオラ等の冬の花やえんどう豆等を植栽する作業が行われました。
- ◆菜園の植物たちはすべてプランターで栽培されており、守本先生の指示のもと、枯れたトマトやピーマン等を引き抜き、土を掘り返して新たな花や野菜を植え、植栽後は周囲の落ち葉や草をキレイに集めて作業は終了しましたが、学生の皆さんは皆真面目に黙々と取り組まれているのが印象的でした。



▲ 植栽作業

団体名 ふれあいの森なんでも工房 (周南市)

代表者名	村田 真博	団体の目的
構成員数	15人	<ul style="list-style-type: none"> 森林公園ふれあいの森を活用して、「元気な子ども、元気な大人を育む森」とするため、3世代交流活動など地域住民を主体とした活動を推進する
設立	2001年3月	
問い合わせ先	shunanfuremori@gmail.com	

事業名 子どもと高齢者の居場所づくり (サード・プレイス)

事業の目的

- ①子供会活動の衰退、②コロナ禍による団体活動の低減、③学校の部活動の廃止などから、取り残される個々の子どもたちや高齢者を支援するため、サード・プレイスとなる居場所づくりを整備する

事業の内容

- 子ども食堂の開催

開催日	毎月(8~12)下旬	開催場所	ふれあいの森なんでも工房	参加者	延べ410人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○小中高生と母親等により、会場設営や受付など分担して活動(40名) ○そうめん流し、ピザパイづくり、カレーライス、団子汁、ダイガラでの餅つき大会など 				

事業の成果

- 活動の基本スタンスは参加者自身の挑戦・体験により楽しく有意義なものにするという方針だったが、子ども食堂開設や食事作り、様々な活動まで、子どもたちの主体性で推進し、支援する大人は後方支援としてサポートすることができた
- 計5回の子ども食堂開設は、想定外のサポーターの自主的な行動により、予定どおり開催することができた
- 自然の森での野外活動による子ども食堂推進への基盤ができた

現場活動レポート 子ども食堂 ふれもりランチの開催 (ピザパイづくり等)
日時：9月29日(日) 10:00~/会場：須々万ふれあいの森(周南市)

- ◆当会は、居場所がなくなってきた子どもたちや高齢者を支援するため、須々万ふれあいの森にある会の拠点施設を活用し、今年度から子ども食堂を開始。
- ◆今年度2回目となる今回は、地元住民や中高生のボランティアに協力していただき、子どもたちが自分で作るピザづくりを実施。
- ◆当日は、小・中学生の親子連れを中心に、地元の須々万地区だけでなく他地区や市外からも多くの参加がありました。
- ◆予め用意してあったピザ生地の塊を、自分たちが棒で伸ばし、好みのトッピングをして窯で焼いて貰って、出来立てを食べる流れで、参加者同士の会話も弾み、世代を超えた交流も行われるなど、大変盛り上がりがありました。



▲ 生地を作って

◀ トッピング

団体名 紙人形劇団ネリノ (宇部市)

代表者名	谷本 和子	団体の目的
構成員数	6人	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を題材にして独自に制作した大型紙人形劇を通して、絵本の心を子どもから大人までの皆さんに伝える
設立	2008年8月	
問い合わせ先	0836-51-5640	

事業名 思いやる心を伝える紙人形劇の制作活動・公演活動・ふれあい活動

事業の目的

- コロナ禍の影響でここ数年、子どもたちや地域の皆さんが生の演劇等に触れる機会が大変少なくなっていることから、早急にこのような学びの場を増やす
- 子どもたちが当劇団の紙人形劇の公演に触れることで児童文学作品に関心を持ち、「感動」との遭遇を体験する機会を提供する

事業の内容

○定期公演(サマージョイント公演)

開催日	8月25日(土)	開催場所	山口南総合センター	参加者	50人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 第1部 「ガラスめだまときんのつのヤギ」 第2部 音楽演奏「木管アンサンブルFarm」 第3部 「チロヌップのきつね」 				

○訪問公演

開催日	① 9月 7日(土) ② 10月26日(土) ③ 11月30日(土)	開催場所	① 宇部市立図書館 ② 宇部市立西宇部小学校 ③ 山口市立平川小学校	参加者	① 35人 ② 40人 ③ 30人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 第1部 「ガラスめだまときんのつのヤギ」 第2部 「チロヌップのきつね」 				

事業の成果

- 山口市でも訪問公演を開催することができ、より広い地域の子どもたちに紙人形劇に触れてもらうことができた
- 上演後にふれあいタイムを設け、子どもたちに人形に触ったり動かしたりしてもらって、今見た紙人形劇により深い関心を持ってもらうことができた

現場活動レポート 「紙人形劇団ネリノ」による紙人形劇
子どもたち・若者たちにおくる、おはなし
日時：11月30日(土) 13:30~/会場：平川小学校体育館(山口市)

- ◆ 当会にとっては、山口市で初となる訪問公演が、平川小学校で開催されました。
- ◆ 女性ばかりの8人による紙人形劇ですが、会場の舞台や袖まで自作され、準備も手際よくされていました。
- ◆ 子どもたちからは、「紙芝居と違って音楽が流れたり、人形が動くので良かった」などの感想もあり、劇の後のふれあいタイムでは、紙人形を実際に手にして物語を振り返っていました。
- ◆ 相手を思いやる気持ちなど、観劇した人の心にひびく上演を心掛けておられるとのことでした。



▲ 劇の後のふれあいタイム

団体名 明日を紡ぐ大地の会 (山口市)

代表者名	福島 光子	団体の目的
構成員数	8人	<ul style="list-style-type: none"> 草の根の文化活動を通じて、県民のふるさとへの愛と誇りを高め、平和で心豊かな山口県を築く
設立	2010年4月	
問い合わせ先	093-921-2476	

事業名 会創立15周年記念事業「2024市民みんなの文化祭」 「山頭火・木村緑平顕彰展示会」

事業の目的

- 地域の文化芸術運動活性化のため、地産地消の文化芸術を創造し、市民に提供している芸術家や芸術集団をジャンルを越えて育成し、多くの市民に鑑賞してもらい、誇りある街づくりを推進する

事業の内容

- 2024市民みんなの文化祭開催

開催日	5月26日(日)	開催場所	ニューメディアプラザ山口	参加者	150人
内容	・べすば、ブラッドオレンジ、花柳流「おつみ会」、山口鷺流狂言保存会、明日を紡ぐ大地の会による公演				

- 山頭火・木村緑平顕彰展示会

開催日	11月10日(日)	開催場所	山口市民会館小ホール	参加者	120人
内容	・朗読劇「緑平さんと山頭火」				

事業の成果

- 山口市民の自立的文化運動を活性化することができた
- 芸術団体同士の交流と学びあいを促進することができた

現場活動レポート 朗読劇「緑平さんと山頭火」
日時：11月10日(日) 14:00～/会場：山口市民館小ホール(山口市)

- ◆当会は、設立15周年を記念して、「市民みんなの文化祭」の拡充のほか、種田山頭火とその心友、木村緑平を顕彰する取組を実施しており、訪問日は、二人の友情の場面を軸とした朗読劇「緑平さんと山頭火」が山口市民館で上映されました。
- ◆併せて、会場では、木村緑平の句と生涯を顕彰する展示も行われており、来場者は興味深く見学されていました。
- ◆小ホールの席は、高齢の女性を中心に席はほぼ埋まっており、盛況を呈していました。
- ◆上演の時間が約1時間半と長丁場でしたが、会員の素晴らしい演技力や遠くまで響く声に加え、スライドで山頭火が見たであろう美しい風景が映し出され、皆さん集中して真剣に聞き入っておられました。



▲ 朗読劇



木村緑平顕彰展示 ▶

団体名 萩浴衣音楽フェス実行委員会 (萩市)

代表者名	田口 宏孝	団体の目的
構成員数	10人	・ 萩市の音楽文化と着物観光を盛り上げるための音楽イベントの事業を実施する
設立	2022年12月	
問い合わせ先	hagi.yukata.rock@gmail.com	

事業名 萩の音楽文化振興と若者に向けた新たな萩の魅力の発信 「Re:萩ろっく！」開催

事業の目的

- 若者が生の音楽に触れる機会や音楽を始めるきっかけと、きものの似合う街大賞の初代グランプリに選ばれた萩市の魅力を発信するため、メインターゲットを10代から30代の若者にして、浴衣や着物で参加する音楽イベントを開催する

事業の内容

- 「Re:萩ろっく！」の開催

開催日	9月29日(日)	開催場所	萩市石彫公園	参加者	227人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内外で活躍するアーティスト(7団体)による音楽フェス形式で開催 ・ 出演者は、可能な限り浴衣で演奏 ・ 和装で参加の観客には団扇の配付 				

事業の成果

- スタッフ及び参加者の学生たちに、プロのミュージシャンの生演奏を体感してもらうことができた
- 萩市の児童館にある音楽スタジオの存在を周知することができた
- 萩市の着物観光振興についてPRすることができた

活動現場レポート Re:萩ろっく!
日時: 9月29日(日) 11:00~/場所: 萩市石彫公園(萩市)

- ◆ 萩市では、バンド活動などをする若者が減少しており、若者が生の音楽に触れてほしいとの思いで、「Re:萩ろっく！」が萩市石彫公園で開催されました。
- ◆ 10代から30代の若者が浴衣や着物を着てロックを楽しむというコンセプトのもと、出演したバンドは浴衣などの衣装で、次々と演奏と歌が披露され、観客も和装で参加して会場を盛り上げていました。
- ◆ 晴天に恵まれた絶好のロケーションの中、参加された皆さんはフェスを満喫した様子でした。



団体名 藍と愛の会 (防府市)

代表者名	飴村 秀子	団体の目的
構成員数	60人	<ul style="list-style-type: none"> 日本が世界に誇る「灰汁醗酵建正藍染(あくはっこうだてしょうあいぞめ)」の技法を正しく伝承する人材を育成する 誰もが共に学び合う中で青少年の育成、地域の活性化を図り「ジャパンプルー」を世界に発信し国際交流を行う
設立	2014年4月	
問い合わせ先	horiewakako@yahoo.co.jp	

事業名 藍と愛の会創立10周年記念「飴村秀子とそのグループ展」

事業の目的

- 伝統的な手法による藍染めを行っているが、その原料の製造に関わっている方や地域住民、地域の子どもたちが藍染めの活動や作品を見たり、触れる機会がないため、もっと多くの方に広く富海の伝統的な藍染めについて関心を持ってもらう

事業の内容

- 「藍と愛の会」創立10周年記念 飴村秀子の軌跡とそのグループ展

開催日	5月18日(土) ～5月26日(日)	開催場所	防府市地域交流センター	参加者	1,100人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飴村秀子の染色人生の集大成となる作品を県立美術館を始めとして市内外の施設、個人宅から借り入れて年次的に展示 ・ 藍と愛の会の会員の作品の展示、即売 				

事業の成果

- 防府市美術連盟、日韓親善交流協会、国際交流課、富海活性化協議会EIGメンバー等と協働して展示会を成功させることができた。今後もワークショップや展示会の共催等を通して交流を深めたい
- 富海小学校、幼稚園、病院や個人宅に収蔵されている作品を公開展示したことで、藍染め作品をより身近に感じて鑑賞してもらえた
- 灰汁醗酵建正藍染の技術の伝承、普及が継続されていることを周知することができた

活動現場レポート

藍と愛の会創立10周年記念「飴村秀子の軌跡とそのグループ展」
日時：5月25日(土) 10:00～
場所：防府市地域交流センターアスパラート(防府市)

- ◆ 当会の設立10周年を記念して、藍染作家で会長である飴村秀子さんと会員の作品展がアスパラートで開催されました。
- ◆ 9日間の会期の終盤の土曜日に訪問しましたが、会場は二つに仕切られており、大きいブースでは飴村会長がこれまで制作された作品を、もう一つのブースでは会員の作品が展示されていました。
- ◆ 飴村会長の作品は、普段、企業や学校、自宅などに展示しており、一堂に集めて展示するのは、とても貴重な機会となっており、作品も形態も様々で、色合いも藍色から赤、オレンジなど幅広く、大変興味深いものでした。
- ◆ また、会員の作品もそれぞれ個性が光る素敵なものばかりで、多くの方が来場し、感心しながら鑑賞していました。



団体名 周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会 (周南市)

代表者名	片川 久美子	団体の目的
構成員数	13人	<ul style="list-style-type: none"> 山口県指定無形民俗文化財糸あやつり人形芝居の保存並びに継承を図る
設立	1946年1月	
問い合わせ先	山口きらめき財団へ	

事業名 伝統芸能「周南市安田の糸あやつり人形芝居」の保存と継承

事業の目的

- 三丘地区の誇れる伝統文化「安田の糸あやつり人形芝居」を多くの方に啓発し、実際に見て、触れていただく中で伝統文化の後継者を育成し、地域の伝承文化への保護意識や関心、地域への誇りを育み、地域活性化への一助とする

事業の内容

○ 保存啓発事業

開催日	8月4日(日)	開催場所	周南市三丘市民センター	参加者	約110人
内容	地元の和霊大明神祭礼に併せて奉納上演し、無形民俗文化財の保存に務める 傾城阿波の鳴門(順礼歌の段)、日高川入相花王(渡し場の段) 寿式三番叟の奉納				

- ・放課後子ども教室(4年生~6年生)年間12回
- ・人形浄瑠璃の体験や指導及び上演会(10/27)

○ 継承事業

- ・周南市立三丘小学校での伝習活動「傾城阿波の鳴門」
- ・熊毛北高等学校での伝習活動「寿式三番叟」
- ・浄瑠璃専門家竹本友和嘉師(徳島在住)を招いて受指導
- ・江戸あやつり人形操演者上條充氏を招いて受指導

事業の成果

- 和霊明神堂前での奉納上演や安田地区での上演会等により地域とともに歩む民俗芸能としての取組を展開することができた
- 伝習活動を行っている三丘小学校と熊毛北高等学校が学校独自に交流会を企画され、生徒、児童に一層の愛着を深めていただくことができた

現場活動レポート

安田の糸あやつり人形芝居講習会

日時：9月24日(火) 13:00~ / 周南市立三丘小学校(周南市)

- ◆三丘小学校を訪問し、糸あやつり人形芝居の指導、継承活動を見学しました。
- ◆当日は、徳島県の浄瑠璃専門家竹本友和嘉師の指導を受けるとあって、どことなく緊張感が漂っていました。
- ◆登場人物たちの心情を反映させるため語りの声の調子や速さを変えることや、三味線との呼吸をあわせて場面をしっかりと観客に伝えること等、プロの目線をとおして丁寧に指導されていました。
- ◆会員や先生が子どもたちにずっと付き添い、竹本さんが言われることをメモしたり噛み砕いて伝えたりと、フォローされていました。
- ◆講習会には、5~6年生約20人が参加し、皆真剣に取り組んでいましたが、経験により差がでるため、無理なく楽しく芝居に取り組めるよう、メンバーが工夫している様子が窺えました。



団体名 スポカルクラブSGC (山陽小野田市)

代表者名	井上 雄治	団体の目的
構成員数	300人	<ul style="list-style-type: none"> 誰もがスポーツ活動及び文化活動の普及推進に関する事業を行うことによって、スポーツ・文化の振興を図るとともに、健康で活力ある地域づくりに寄与する
設立	2013年9月	
問い合わせ先	spocalclub.sgc.sinc e2024@gmail.com	

事業名 部活動の地域移行の受け皿になるための仕組みづくり

事業の目的

- 部活動の小規模化、団体競技の部活動の維持が困難
- 部活動が教員の業務負担となり、部活動の維持が難しい
- 子どもたちがスポーツ・文化活動に継続して親しむことが出来る機会の確保
- 無償ボランティアでの総合型地域スポーツクラブの運営が限界

事業の内容

- 地域イベントへの「スポーツ体験コーナー」の出展
- 教室活動、サークル活動
 - ・高齢者から子どもまで参加できる体操、卓球、水泳などのスポーツ教室、サッカーイベント、薬草講座など(参加者:延べ825人)
- 部活動の地域移行の意見交換会

開催日	①5月25日(土) ②6月22日(土)	開催場所	①②Aスクエア	参加者	① 5人 ② 7人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、市民活動センター、大学教員、保護者等が参加して意見交換会を開催 ・現状の把握、問題点の洗い出し、今後の進め方について 				

事業の成果

- 部活動の地域移行について、山陽小野田市の中学の文化・スポーツ活動体制整備協議会、分科会に参加しながら、独自の会議や教室活動を増やすなどして活動の範囲を山陽小野田市全域に広げることができた

活動現場レポート 薬草による健康講座2024
日時：6月22日(土) 10:00~/場所：山口東京理科大学(山陽小野田市)

- ◆薬草による健康講座(全8回)の2回目が開催され、地元の山口東京理科大学において同大学の田中教授を講師として、「大学で学ぶ薬用植物」と題した講義が行われました。
- ◆薬用植物は、約30万種類あり、医薬品やハーブ、スパイス、食品添加物の原料、健康食品など、人が生活する上で、様々な用途に利用されており、とても身近な存在であること。それだけに、薬用植物の誤使用が多かったり、健康食品の効能についても医薬品と誤認されるような表示はできないことなどの説明がありました。
- ◆様々な薬用植物のサンプルも用意され、匂いを嗅いだり手に取って観察することもでき、参加者(約30人)からは、活発な質問もあり、有意義な講座となったようです。



団体名 宇部市地球温暖化対策ネットワーク (宇部市)

代表者名	渡邊裕志	団体の目的 ・ 低炭素社会の形成を目指し温室効果ガス削減に向け、産・官・学・民の相互理解と協力のもと、地域における地球温暖化対策を協議、実践し、環境共生都市の実現に寄与する
構成員数	76団体+50人	
設立	2002年10月	
問い合わせ先	untonogo@ybb.ne.jp	

事業名 夏休み親子でつくる「ソーラー工作コンテスト」

事業の目的

- ソーラーエネルギーの利用体験により、再生可能エネルギーの理解を深め、民生部門のCO₂削減を目指す
- 親子のコミュニケーションの活性化と次世代を担う子どもの自分で考える力を育む

事業の内容

- 夏休み親子で作る「ソーラー工作コンテスト」

開催日	①7月21日(日) ②8月25日(日)	開催場所	①多世代ふれあいセンター ②宇部市総合福祉会館	参加者	88人
内容	①説明会(「太陽光発電はどうして電気を作れるの?なぜ大切なのか?」・工作機材配付) ②審査会・表彰式・環境クイズ				

事業の成果

- ソーラーエネルギーの利用体験により、再生可能エネルギーへの理解を深めることができた
- 様々な材料や道具を使い、アイデアを出し合いながらの工作過程で子どもたちが自分で考える力を育むとともに、家族内のコミュニケーションを図ることができた
- 作品集として冊子を作成し、啓発ツールとして配布したり、HPでも紹介したが、来年度からは展覧会を開催して発表するなどして、アピールの効果を上げたい

活動の写真



▲ 説明会(7/21)



作品展示 ▶

表彰式(8/25) ▶



▲ 環境クイズ

団体名 **さくらの守人** ^{もりびと} (山口市)

代表者名	水津 久美子	団体の目的 ・ 後世に美しく咲く桜を残すため、剪定できる人や病気を正しく認識できる人を増やす
構成員数	12人	
設立	2021年1月	
問い合わせ先	sun1sun2moon3@yahoo.co.jp	

事業名 **桜のてんぐ巣病の剪定治療と啓発**

事業の目的

○ 桜のてんぐ巣病を治療することにより桜の管理に対する危機を啓発し、景観美化や安全対策を行う

事業の内容

○ 啓発活動

開催	年間で13回	開催場所	山口市徳地、周南市鹿野、防府市	参加者	400人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大原湖キャンプ場:クラフトワークショップ、啓発 ・防府高等学校佐波分校:桜染めワークショップ、啓発、山口大学教授の講義 ・鹿野旧大潮小学校:イベントでのパネル展示、チラシ配布、剪定治療 ・徳地文化ホール:人権コンサート前段の公演、啓発 ・徳地伏野河川公園:剪定会の開催、啓発 等 				

○ 1月～3月、大原湖キャンプ場のてんぐ巣病剪定治療を実施

事業の成果

- 鹿野で剪定や病気の講習会ができたことで、鹿野で桜再生プロジェクトの話が持ち上がった
- 桜を守ることへの関心を高め、継続的な管理の必要性を理解してもらうことができた
- 「さくらバトンプロジェクト」(選定治療の際の花芽のついた枝を病院や介護施設等に配布して桜を見もらう)がスタートした

現場活動レポート **桜の説明&人権コンサート**
日時: 9月27日(金) 14:15~/場所: 徳地文化ホール(山口市)

- ◆ 当会は、地域の桜を守るため、桜の病気や正しい剪定方法などの講習を各地で実施しており、今回は、山口市立中央小学校で、小学生や防府高校徳地分校の生徒、地域住民を対象に、桜についての説明をされました(同時開催の人権コンサートの前に実施)。
- ◆ スライドを使いながら、クイズ形式で興味を引きながら話をされ、「どの部分が病気か」、「どうすれば治療できるか」など、自分たちの活動に絡めて分かりやすく説明されていました。
- ◆ 「自分たちの近くにある桜は自分たちで守っていくという意識をもってほしい」ということを強調されており、子どもたちをはじめ参加された皆さんは真剣に耳を傾けておられました。



団体名 おう 阿武の松原のみどりを守る会 (萩市)

代表者名	西元 勇	団体の目的
構成員数	38人	<ul style="list-style-type: none"> 歴史ある阿武の松原と大井の海岸線を彩る松林の整備や管理をとおして、大井の自然環境の素晴らしさと文化や歴史を未来への伝える
設立	2021年5月	
問い合わせ先	kinoko@haginet.ne.jp	

事業名 阿武の松原の再生保全

事業の目的

- 昔からの景勝地であり平安末期からさまざまな歴史や言い伝えの場面に登場する「阿武の松原」が、少子高齢化により地域から忘れられつつあることから、以前のように地域のオアシスとして住民に愛されるように再生・保全し、子どもたちに継承していく

事業の内容

- 松原の管理作業(除草、草刈り、松くい虫被害木の伐採処理等)
- クロマツの植樹式

開催日	3月20日 (木・春分の日)	開催場所	阿武の松原	参加者	40人
内容	・大井小中学校の児童、生徒、卒業生及びその家族による植樹				

事業の成果

- 猛暑の影響で松原の管理作業や体験教室の開催に支障はあったが、可能な範囲で実施できたことで、植樹や管理作業により、関係者の思いや絆は確実に強固なものになりつつある
- 中学校卒業時に植樹に参加した子が、今回の植樹に再度参加してくれたことで「小さな種から芽がでている」と感じている

現場活動レポート 第41回大井ふるさとまつり
日時：3月20日(木) 13:30～/場所：大井公民館多目的広場(萩市)

- ◆大井地区の子どもたちが、将来地元を離れても、自分の植えたクロマツを見守ることで、郷土を愛する気持ちをもってもらいたいと、ふるさとまつりの中でクロマツの植樹式が実施されました。
- ◆当日は、地元の小中学生約15人と地域住民など、約40人が参加。最初に西元会長が挨拶され、続いて草野副会長から、今回の作業手順として、①これまで植えた苗を守るために設置した防護柵の補修、②植樹場所の土ならしと穴掘り、③クロマツの植樹を行うとの説明がなされました。
- ◆植樹は、今年小学校と中学校を卒業した7人が、親子でペアとなって1組ずつ行われ、その後全員で協力して全部で40本のクロマツを植樹しました。
- ◆最後に全員で記念撮影をして終了となりましたが、子どもたちの郷土愛や地域の絆を育みたいとの思いが伝わるイベントとなりました。

全員で手分けして植樹 ▶



団体名 いわくに竹の会 (岩国市)

代表者名	佐古 雅子	団体の目的
構成員数	30人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放置竹林を整備し、日本三大美竹林と呼ばれた岩国の竹林を復活させる ・ 子どもたちが自然と触れ合える場の提供 ・ 竹の有効活用
設立	2023年4月	
問い合わせ先	iwakunitakenokai@gmail.com	

事業名 美しい竹林を次世代につなごう

事業の目的

- 放置竹林が増えたことにより錦川の美しい景観が損なわれているため、放置竹林を整備し景観を美しく保つとともに、竹を有効活用し資源化する
- 竹林の整備や竹を活用した活動を通して自然に親しみ、楽しく学ぶ環境をつくる

事業の内容

- 年間を通して放置竹林の間伐、下草刈り
- 竹を活用したワークショップ

開催日	①4月27、28日(土日) ②8月24、25日(土日) ③9月15日(日)	開催場所	①守内竹林 ②宇津神社境内 ③今津ふれあいセンター	参加者	①22人 ②27人 ③10人
内容	①たけのご掘りとDayキャンプ ②竹を使った流しそうめん ③竹で行灯をつくろう				

事業の成果

- 一部ではあるが、竹林の景観維持に貢献できた
- 活動を通じて錦川清流線沿線の住民との関係が良好となり、竹林の整備以外にも要請に応じて様々なイベントに参加したことで、会の認知度を上げることができ、会員増にもつながった

活動現場レポート 竹林の竹を有効に使って楽しもう♪♪♪竹の行灯作りの会
日時：9月15日(日) 10:00~/場所：今津ふれあいセンター(岩国市)

- ◆ 竹林整備で切り出した竹を使って行灯を作るワークショップが開催されました。
- ◆ 材料の竹は、予め適当な大きさに切って、バーナーで炙って油抜きがされており、参加者は型紙を選んで竹に貼り、目安にしながらか電気ドリルで穴を開けて制作しました。
- ◆ 最初は、慣れない工具の扱いに恐る恐る慎重に取り組んでいましたが、要領を得てからは皆楽しく、助言したり手を貸して、思い思いの行灯に仕上げていました。
- ◆ 日本三大美竹林と言われた岩国の竹林の復活を本気で目指して、手段や手法を模索しておられ、今回の行灯作りをはじめ、色々な事に楽しみながら取り組んでいるとのことでした。



慣れると小学生でも楽しめる ▶

シーズ
団体名 Seeds (柳井市)

代表者名	西本 利治	団体の目的
構成員数	32人	<ul style="list-style-type: none"> 都市農山村交流と自然環境保全活動を通して地域の活性化と子どもたちの健全育成を図る
設立	2002年8月	
問い合わせ先	tmgo@sunny.ocn.ne.jp	

事業名 里山再生事業地「お山の学校」機能アップ

事業の目的

○農山村と都市及び地域の異世代間交流の拠点としての「お山の学校」の整備充実を進め、子どもたちが大人の手を離れて自由に活動できる模擬自然空間を提供する

事業の内容

○「お山の学校」を中心とした活動

開催日	通年	開催場所	お山の学校、地元小学校等	参加者	567人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○炭焼き原木取りと炭焼き作業(5日) ○地元小学校での「森の学校」(5日) ○「お山の学校」等の伐木、草刈り作業(4日) ○「お山の学校」でのイベント(たけのこ交流会、里山探検隊、きのこ交流会等)(9日) ○「ツリーハウス」の新設(7日) 				

事業の成果

- 活動を通じて地域住民の交流を促しながら相互扶助の精神を養い、地域内の人間関係に潤いを与えることができた
- 「お山の学校」を活用した市民との親睦、子どもたちの自然体験を図ることができた
- 特にツリーハウスの新設により、多くの子どもたちの関心を集め、冒険心をくすぐることができた
- 今後も、ビオトープの整備など更に設備の拡充を図っていきたい

現場活動レポート 令和6年度 第19期里山探検隊
 日時：7月27日(土) 13:30~/場所：ふれあいどころ437(柳井市)

- ◆今回で19回目となる小学生向けの宿泊体験学習「里山探検隊」が1泊2日の日程で都市農村交流施設「ふれあいどころ437」で開催されましたので、その初日に訪問しました。
- ◆当日は、最初に入隊式が行われた後、近くにある「お山の学校(当会が交流拠点として整備)」に移動して、2日目の魚釣り、そうめん流し体験に使用する、つり竿と竹の器、箸を自分たちで作りました。
- ◆参加した子どもたち(24人)は、スタッフに教わりながら、ノコギリ、鉋、ヤスリなどを使って楽しみながらも一生懸命に作業をしていました。
- ◆暑さ対策やスタッフの体制・役割分担などもきちんとされており、子どもたちが安心して楽しく過ごせる環境が整備されていました。

釣り竿作り ▶



▲隊長の説明を
 しっかり聞いて

団体名 **せとうちブループロジェクト実行委員会** (周南市)

代表者名	渡辺 裕子	団体の目的
構成員数	9人	<ul style="list-style-type: none"> 山口県の海をスポーツ・産業・文化の観点から捉えて、地球環境の新たな価値を創出するとともに、海の楽しさややすばらしさを山口県から発信していく 故郷の豊かな海を次世代へと引き継いでいくために、イベントを通して海の環境や防災への啓発活動を行う
設立	2020年10月	
問い合わせ先	jwqnh819@ybb.n e.jp	

事業名 **せとうちブループロジェクト2024 (imagine)**

事業の目的

- 海洋ゴミの、元々の原因は町から流れだすゴミによるものであることから、町に暮らす一人ひとりの意識を改革する
- 地域団体、企業、大学が連携してデジタル等を活用した取組で地域の海の保全活動及び環境啓発を行う

事業の内容

- 大学生を対象にしたeセーリング講習会
 - ・講習会8月9日～10日 ・オンライン講習(毎日曜日20時～)
- せとうちプロジェクト2024(imagine)

開催日	10月26日(土) 27日(日)	開催場所	周南市立徳山駅前図書館/ 徳山駅前賑わい交流施設	参加者	700人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・eセーリングアプリやscratchプログラムで風や潮流の自然環境や船舶ルールを学ぶ ・廃棄物を使ったアート作品の展示や海の科学実験室、ライフジャケット着用講習会、環境トークショー 等 ※イベント等のデジタル配信 				

事業の成果

- SNSやアプリを活用したり大学生のスタッフを確保できたことで、若い世代の家族から高齢者まで幅広い層の参加があり、イベントが盛り上がった
- 連携した企業や大学生等と良好な関係を持つことができた
- デジタルの活用により、若者世代や県外にも取組を広く広報することができた

現場活動レポート **せとうちブループロジェクト2024 (imagine)**
日時：10月26日(土) 10:00～/場所：徳山駅前図書館(周南市)

- ◆ 今年度は、瀬戸内海という地域資源の環境啓発をテーマに「せとうちブループロジェクト2024」が徳山駅前図書館で開催され、地域団体・企業・教育機関等が連携してサステナブルな仕組みを構築することを目指し、それぞれの専門分野でブース等を出展されていました。
- ◆ ステージではライフジャケットの正しい着用方法、座布団型のライフジャケットの紹介、e-sportsのセーリング体験があり、また、トクヤマ科学クラブのブースでは水圧を使ったワークショップが行われました。
- ◆ ステージの様子をSNSでライブ配信したり、e-sportsで海への関心を高めるなど、デジタルツールを活用して、より幅広く伝える試みを積極的に取り入れられていました。
- ◆ とにかく、海への関心を持ってもらい、海へ行き、どんな遊びがあるのか、環境はどんな状況なのかを知る、そのきっかけを発信したいとのことでした。



▲ SNSライブ配信



◀ ライフジャケット着用説明

団体名 一般社団法人 やまぐちGISひろば (宇部市)

代表者名	三浦 房紀	団体の目的
構成員数	122人	<ul style="list-style-type: none"> GISに係わる技術者の情報交換と技術力向上、GISの普及と公開の場を設定する GISを地域創生の一翼を担う技術としての活用を推進する
設立	2017年6月	
問い合わせ先	info@yamaguchi-gis-hiroba.org	

事業名 オープンデータ・GIS（地理情報システム）で作ろう
地区ハザードマップ製作支援

事業の目的

○ 地区独自のハザードマップを地域住民自らが簡単に作れるようにするため、オープンソースを駆使したGISの活用方法を啓蒙するシンポジウムや講習会を開催する

事業の内容

○ 第9回GISフォーラム～GISで奏でる地域防災（ARアプリ・防災マップ）～

開催日	①10月15日(火) ②10月16日(水)	開催場所	KDDI維新ホール	参加者	①74人 ②34人
内容	①GIS講演会 ・「厚狭川、榎野川流域で発生した水害」「オープンソース防災教育ARアプリの開発と地域防災での活用」「QGIS・オープンデータを活用したマップ製作」 ②QGIS講習会 ・「QGISのTips集紹介」「防災士向けQGIS講習会」				

事業の成果

- GIS講演会では、GISが防災対策に有効なツールであることを再認識することができ、ARアプリの活用が、3Dの視覚効果、学校・地域への波及効果が高いことが実感できた
- QGIS講習会ではソフトウェアの操作講習を実施した、高齢の防災士にはついていけない部分もあったが、地域での活用イメージを実感してもらえた（数名の防災士に絞って補講を実施）

活動現場レポート 第9回GISフォーラム～GISで奏でる地域防災
日時：10月15日（火）13：00～／場所：KDDI維新ホール（山口市）

- ◆ 当会は、GISの有効性と活用方法について広く啓発し、技術を学ぶ講習会等を毎年開催されており、今回は、「GISで奏でる地域防災」と題して、2日間にわたってフォーラムが開催されましたので、その初日に訪問しました。
- ◆ 開会挨拶ののち、山本副理事長から2023年に山口県の厚狭川、榎野川流域で発生した水害について解説され、続いて子どもたちも楽しく使える防災アプリを開発された大阪公立大学の吉田大輔准教授と北海道でオープンデータを活用して様々なマップ製作等を行われている元北海道庁職員の喜多耕一さんによる講演が行われました。
- ◆ 会場は満員で、行政や福祉施設、企業、大学などから様々な方が参加されており、防災の分野だけでなく幅広い形でのGIS活用について熱心に学ばれていました。



団体名 幸坂総合教育研究所 (山口市)

代表者名	幸坂 美彦	団体の目的
構成員数	15人	<ul style="list-style-type: none"> 人間能力の開発と活用及び地域や社会に貢献できるスペシャリストや地域で活躍する若者の人材育成と地域に定着した活動ができることを目的とする
設立	2008年5月	
問い合わせ先	ykoffice08@gmail.com 090-1356-4475	

事業名 知って・みて・考える 新しい防災対策プロジェクト

事業の目的

○防災の視点を起爆剤に、小学校高学年から中・高・大生などの若者を中心として、地域住民と顔見知りになり、つながることから、人や地域を守り、担い手となり、新しい防災に取り組む

事業の内容

○「知って・みて・考える新しい防災対策」講座

開催日	① 5月19日(日) ② 7月13日(土) ③ 8月18日(日) ④ 11月10日(日) ⑤ 2月 2日(日)	開催場所	①大歳地域交流センター ②名田島地域交流センター ③山口市内各所 ④周防大島町内 ⑤大歳地域交流センター	参加者	① 30人 ② 26人 ③ 21人 ④ 22人 ⑤ 29人
内容	①洪水対策②高潮対策③活断層と土砂災害被災跡地の巡検④周防大島島内被災地巡検⑤能登地震ボランティア活動講演				

事業の成果

- 集まった皆さんは、自分の命は自分で守る自助意識はあるが、一般の住民に対する防災意識の啓発と充実が求められる
- 防災の啓発は、継続して行うこと、わかりやすく伝えること、年齢に関係なく丁寧に教えること等が必要で、基本は、「人と人とのつながりがいのちを救うことや立ち直ることになる」と確信できた

活動現場レポート 知って・みて・考える 新しい防災対策② (高潮編)
日時：7月13日(土) 10:00~/場所：名田島地域交流センター (山口市)

- ◆当日は、昭和17年8月27日に名田島地域を襲った周防灘台風(高潮で堤防が決壊し、床上水位1.5m、32人死亡)の被災経験を踏まえた、高潮に対する防災対策について、現地視察も含めた講義が行われました。
- ◆最初に、幸坂代表が挨拶され、続いて名田島自治会連合会防災部会の佐分利会長から、昭和17年の周防灘台風の高潮による被災・被害状況と、現在の名田島地域のハザードマップ等を踏まえた防災対策についての講義がありました。
- ◆その後、現地視察として、被害を後世に伝えるために建てられた「大水害受難之碑」と高潮で決壊した榎野川手左岸堤防(名田島排水機場、電動式大樋門等)を訪れましたが、参加された方々は、実際に身近で発生した災害を学びながら、改めて防災対策の必要性を感じられているようでした。

大風水害受難之碑 ▶



団体名 やない平和を語る会 (柳井市)

代表者名	久保 優子	団体の目的
構成員数	17人	<ul style="list-style-type: none"> 戦争体験者に貴重な戦争体験を語っていただき、平和への気持ちを未来へつなげていく 戦争体験者の体験を記録に残し、講演をサポートして平和への心を伝えていく
設立	2016年4月	
問い合わせ先	docomokara41@gmail.com	

事業名 平和への願いを引き継いでいく

事業の目的

- 戦争体験者の方が高齢により亡くなっていく中、戦争体験を記録に残し子どもたちにもわかりやすく、平和への思いを語り継いでいく

事業の内容

- 講演会、音楽会、平和学習

開催日	開催場所	参加者
① 8月 6日(火) ② 9月27日(金) ③ 11月24日(日) ④ 12月 5日(木)	①みどりが丘図書館 ②柳井小学校 ③柳東文化会館 ④柳東小学校	① 65人 ② 82人 ③ 37人 ④ 36人
内容	①原爆の日平和講演(戦争、被爆体験者の講演) ②平和学習講演(森重笑子さんの戦争体験談) ③平和講演会と平和音楽会(戦争体験談と地元サクソフォン奏者によるコンサート) ④平和学習講演(浅海頼子さんの戦争体験談)	

- 平和の冊子作成配布

- 戦争体験者やその家族の理解を取り、子どもたちが読みやすく、わかりやすいものを作成
- 県内の全図書館、柳井市内の小中学校、市役所、病院などに配布

事業の成果

- 平和講演会や小学校での講演会は、テレビや新聞に取り上げられ、記録に残すとともに広く人々の記憶に残すことができた
- 今後も冊子を活用したり、絵本、紙芝居、ビデオ上映などで平和を語り継ぐ方法を模索していきたい

活動現場レポート 平和を語る 講演会
日時：8月6日(火) 10:00～/場所：柳井市みどりが丘図書館(柳井市)

- ◆広島原爆投下から79年目となるこの日、戦争の体験や話を聞きそれを後世に伝える活動をされている4人の方による「平和を語る」講演会が開催されました。
- ◆17歳で被爆体験された浅海頼子さん、光海軍工廠で学徒動員中に空襲に遭った森重笑子さん、記者として原爆の被害を調査して数々の記事を書いた山本祐司さん、母親が満州で看護婦をされ、その悲惨な体験を聞いていた中川幸範さんが、それぞれの体験を紹介し、あらためて平和の尊さについて語られました。
- ◆参加者はほとんどが高齢の方でしたが、中には小学生の子どもたちの姿もありました。会場は満席となっており、時には涙ぐみながら真剣に話を聴かれており、皆さんの関心の高さが窺えました。



団体名 特定非営利活動法人 山口女性サポートネットワーク (宇部市)

代表者名	小柴 久子	団体の目的
構成員数	66人	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会の形成を目指し、女性に対するあらゆる暴力を根絶することによって福祉の増進に努める
設立	2002年12月	
問い合わせ先	ysnw@joy.ocn.ne.jp	

事業名 びーらぶインストラクター養成講座 基礎講座

事業の目的

○被害女性とその子どものための心理教育プログラム「びーらぶ」に係わるインストラクター自体の人数が少なくなり、新たなインストラクターを養成し、充実したプログラムを実施できるようにする。

事業の内容

○ びーらぶインストラクター養成講座(基礎講座)

開催日	7月14日(日) 7月15日(月) 8月17日(土) 8月18日(日)	開催場所	宇部市男女共同参画センター・フォー・ユウ	参加者	21人
内容	DVや子どもへの虐待の連鎖を食い止めたり、自己肯定感を高めるためのプログラム「びーらぶ」を学び、インストラクター(支援者)の養成につながる講座(基礎講座)・・・応用講座も助成対象外で実施				

事業の成果

- びーらぶプログラムのインストラクターを養成することができ、10月から実施するプログラムにもインストラクターとして協力してもらうことができた
- 行政の相談員や施設等で相談業務、介護業務に携わる方の参加もあり、今後、日々の業務で役立てていただきたい

活動現場レポート びーらぶインストラクター養成講座 基礎講座
日時：7月14日(土) 10:00～
場所：宇部市男女共同参画センター(宇部市)

- ◆この日は、DV被害者の支援につながる「びーらぶプログラム」のインストラクターの養成講座のうち、基礎知識を学ぶ講座※が開講されました。
※この基礎講座(22時間)と応用講座(36時間)を修了するとインストラクターとして認定
- ◆講師は、東京のNPO法人女性ネットsaya-sayaの松本和子代表と佐藤浩子さんが務められ、テキストに沿って丁寧にポイントを説明していく流れで進められましたが、話を聴くだけでなく、問いに対して回りの人と話したり、自分で考える時間が設けられるなど、工夫された構成となっていました。
- ◆受講者は、受講料(12,000円)を払って参加されただけあって、積極的に質問、発言されており、真剣に学ばれている様子が窺えました。



団体名 NPO法人 おひさま生活塾 (宇部市)

代表者名	近藤 鉄浩	団体の目的
構成員数	31人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児・者に対する自立生活の支援、障害児・者の保護者に対する育児・養育支援、及び地域住民に対して障害児・者とその家族への理解を拡大し、地域の生活支援環境の充実に関する事業を行い、豊かな地域生活に寄与する
設立	2004年7月	
問い合わせ先	mizutakazue18@gmail.com	

事業名 子どもが創る“隠れ家”活動

事業の目的

- 豊かな自然環境の中で、子どもたちがそれぞれの持つ力を出し合って創造的な遊びを体験することで、子どもの健全な心身の育成を図る

事業の内容

○ おひさま生活塾

開催日	①9月14日(土) ②11月2日(土) ③12月21日(土)	開催場所	①~③ おひさま生活塾寺子屋 ほわほりん広場	参加者	①46人 ② - ③23人
内容	①星を見る会(月見団子づくり、オカリナ演奏と音楽遊び、天体観測) ②焼き芋キャンプ(テントの設営、焼き芋用かまどの設置など)・・・暴風雨で中止 ③クリスマスツリーづくり、オカリナ演奏と歌、手遊びと人形劇、ゲームなど				

○ 子どもの居場所づくり活動(年間を通して活動)

- ・ さつま芋、ネギの植栽、星を見る会ポスター作り、花壇作り、草刈り、焼き芋用の窯場作り、玉ねぎ、大根、ジャガイモの植栽など

事業の成果

- 障害のある子どもと地域の子もたちとの自然な交流ができ、保護者にも手伝い、補助員として参加してもらったことで、保護者同士の関りも生まれた
- 行事の指導をお願いした専門家や学生の参加により、障害のある子どもたちへの理解者を増やすことができた
- 保護者からも、今後もこのような交流活動の継続の要望があり、人件費の確保や組織作り等、困難な面はあるが、地道に取り組んでいきたい

活動の写真


▲ 星を見る会



▲ クリスマス会

団体名 NPO法人 森と海の学校 (宇部市)

代表者名	岡村 精二	団体の目的
構成員数	25人	<ul style="list-style-type: none"> 「体験教育の実践及びその普及に関する事業」「国際交流に関する事業」「子育て支援に関する事業」を行い、心豊かな冒険心にあるれる青少年及び指導者を育成し、社会教育の推進と青少年の健全育成に寄与する
設立	1984年4月	
問い合わせ先	school@okamura21.com	

事業名 不登校や生きづらさを感じている児童生徒のための「森と海の学校」

事業の目的

- 「遊びながら楽しみながら学ぼう」をテーマに自然に対する畏敬の心や異年齢の交流による人間関係構築能力の向上、物作りの楽しさや喜び、達成感を仲間と共有すること「学ぶ力」「自己肯定感」を高め、「生きる力」を育む

事業の内容

- 森と海の学校

実施内容	開催日	開催場所	参加者
小野湖でカヌーEボートを自在に操って爽快感を楽しもう	6月10日(火)	アクティブリッジおの	20人
達人が教えるラーメンとチャーシュー、煮卵づくり	7月25日(金)	本山公民館	15人
自然の神秘を学ぶ洞窟探検と弁天池	9月13日(金)	景清洞	23人
板前さんが教える包丁の研ぎ方と魚のさばき方	10月18日(金)	本山公民館	21人
君は陶芸家、世界に一つだけの陶器を作ろう	11月7日(木)	原ふれあいセンター	12人
ピザ窯で自分だけのおいしいピザと焼き芋をつくろう	12月13日(金)	森と海の学校	18人
講演「可能性への挑戦」 ライフサイクルプラン(人生設計)の作成	1月24日(金)	森と海の学校	12人
山口市への日帰り研修「湯田温泉と中原中也記念館」	2月28日(金)	宇部駅-山口市内	15人

事業の成果

- 継続的な自然体験や創作活動を通して、「学ぶ力」「自己肯定感」を高め、「生きる力」を育み、不登校や生きづらさを感じている児童生徒の笑顔と輝きを取り戻し、学校復帰や学習意欲を促すことができた
- 当校では、40年にわたり、不登校の児童生徒がキャンプなどの自然体験活動を通して学校に復帰した事例を数多く経験しており、今回の事業でも改めてその必要性を強く感じた

活動の写真

▼ 小野湖でカヌー体験



▲ ラーメンづくりに挑戦

▼ 陶器を作ろう



▲ 洞窟探検

団体名

こころのほし～完璧な親じゃなくていい。もっと子どもの心の声を聴いて～ (山口市)

代表者名	坂田 美紀	団体の目的
構成員数	16人	<ul style="list-style-type: none"> 不安や悩みを抱える子どもやその保護者に寄り添い、親子に伴走する傾聴活動を通じて、子どもたちの心を見守り支え、子どもの自立に向けた支援を目指す
設立	2022年4月	
問い合わせ先	candypeko1975@gmail.com	

事業名 こころのほし～完璧な親じゃなくていい。もっと子どもの心の声を聴いて～

事業の目的

- 非行少年に対する偏見を減らし、全ての子どもに平等に接することのできる地域社会にしてい
- 子どもが家庭や学校で言えない困りごとにいち早く気づき、問題行動や非行、虐待、ネグレクト、ヤングケアラー、不登校などを未然に防ぐ

事業の内容

○ こころのほし研修会

開催日	7月21日(日)	開催場所	山口市小郡地域交流センター	参加者	26人
内容	「わたし生きていいのかな」(虐待やネグレクトのセミドキュメンタリー)を上映、意見交換会				

○ 家族のこころを繋ぐ親子料理教室

開催日	8月1日(木)	開催場所	山口合同ガスひまわり館	参加者	33人(親子16組)
内容	講師 Watonaru調理技能士 増見聖子氏による、小さなお子様でも簡単に楽しく美味しく作れるレシピで調理、絵本「こどものけんり」読み聞かせ				

○ ママのこころの遊園地

開催日	9月22日(日)	開催場所	山口市市民活動支援センターさぼらんて	参加者	延べ800人
内容	親子で楽しみながら、子育て支援団体とつながるイベント ワークショップ、ゲーム、ママの癒しコーナー、参加団体活動展示、スタンプラリー				

○ こころのほし上映会

開催日	11月10日(日)	開催場所	山口市小郡地域交流センター	参加者	64人
内容	「ママのおなかで笑っていたよ」(胎内記憶をテーマにしたドキュメンタリー)「記憶」(少年院のドキュメンタリー)を上映、保護司を交えて意見交換座談会				

事業の成果

- 家庭や社会環境の影響、子どもの心の内に関心を持つ多くの方に参加いただき、映画や座談会などを通して意識の変化が生まれ、子ども支援に関わる行動や協働の拡がりを期待できる足がかりともなった

活動現場レポート こころのほし研修会
日時：7月21日(日) 9:50～/場所：山口市小郡地域交流センター(山口市)

◆ 映画を通じて、子どもの声を聴くことの大切さを学びあう研修会が開催されました。

◆ 映画では、虐待、ネグレクトなど子どもたちが直面している問題や傷ついた子どもたちを支える大人たちが描かれており、上映後は、参加者とスタッフを5つのグループに分けて、「感想」と「自分にできること」について意見交換が行われました。

◆ 参加者からは様々な意見が出され、皆さん自分事として捉えて真剣に考えている様子が窺えました。

意見交換会 ▶



団体名 どっとこみゅ (岩国市)

代表者名	谷光 純弥	団体の目的
構成員数	7人	<ul style="list-style-type: none"> 人と人のつながりの創出を通して、社会的孤立の解消や社会的・個人的課題の解決を目指し、地域住民及び参加者の心身の健康促進と交流の機会、気づきの機会、行動の機会を提供することで、快適で住みよいまちづくりに寄与する
設立	2021年5月	
問い合わせ先	xxx.comu1092@gmail.com	

事業名 コミュニティハウス F+A (フラット)

事業の目的

- 家庭環境や経済事情による学習機会格差、教育環境格差をなくす学習空間の提供、第三の居場所の提供
- 高齢者や乳幼児育児世代などの社会的孤立をなくす交流拠点の創出
- ヤングケアラーなどの悩みを気軽に共有できる関係性づくり

事業の内容

○コミュニティハウス事業(F+A)

開催日	不定期 要望により開講	開催場所	コミュニティハウスF+A	参加者	328人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プチセミナー「理解が深まる歴史講座」「ココロの勉強会COCORO LABO」「親子コミュニケーション講座」などで学びたい人と教えられる人のマッチング ・イベント、ミーティングスペースとして「夢を語ろう会議」など開催 ・地域の情報拠点として、育児放棄家庭等の情報や育児の悩みなどを収集、関係団体と協力して対応 				

○学習支援事業

開催日	毎週(火)(木)	開催場所	コミュニティハウスF+A	参加者	557人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰でも勉強できる」場所 ・主に自習してもらい、質問にも対応して学習支援 				

事業の成果

- コミュニティハウス事業、学習支援事業とも、所期の目的を達成できた
- 保護者や子どもからの相談窓口となり、関係団体と連携して解決に向かう拠点となった
- 人と人、地域と外国人をつなげる場として機能し、連携の促進、社会的孤立の解消の一翼を担うことができた

活動の写真



中高生、大人が入り混じって百人一首 ▶



▲ 地域の交流の場としても

団体名 やないしらかべ『絆』ねっとわーく (柳井市)

代表者名	中本 瑞穂	団体の目的
構成員数	19人	<ul style="list-style-type: none"> 柳井市・近郊地域の子どもたちを対象に、食事の提供、学習支援、体験教室などを行い、子どもの健やかな成長につながる居場所づくりを目指す 子どもの悩みや不安の解消に向け、他団体や行政等と連携する
設立	2021年4月	
問い合わせ先	871.kizunanet@gmail.com	

事業名 地域で子どもたちを応援！「思い出いっぱい」プロジェクト！

事業の目的

- 専門的な知識や資格を有している地域の住民を講師に、子どもの成長、地域への興味につながる様々な体験や遊びを提供し、薄れつつある子どもたちと地域のふれあいを創出する

事業の内容

- 体験教室の開催

開催	7月～2月の間で年間9回	開催場所	やないろ(柳井市柳井津) 田布施農工高校 柳井市中央公民館等	参加者	延べ104人 (年長～高校生)
内容	十五夜味噌づくり体験、金魚ちょうちん製作体験、農工野菜でLet's cooking、茶道体験、イタリア野菜調理体験、漁師飯調理体験、ワンホールケーキデコレーション体験				

- 地域をつなぐ「絆」写真展
・2月19日～3月3日、やない西蔵ギャラリーで3年間の取組の写真展を開催

事業の成果

- 地域で暮らす皆さんの、「地域の子どもたちに伝えたい」想いと、私たちの「学んでほしい」「触れてほしい」という課題を地域のネットワークの中から実践することができた
- このような取組を今後も自発的、自立的に進めていける基盤を作ることができた

活動現場レポート イタリア野菜を知ろう！
日時：12月14日(土) 10:00～／場所：宇佐木地域交流センター(平生町)

- ◆ 「地域で子どもたちを応援！「思い出いっぱい」プロジェクト」として、今回は、平生町の宇佐木地域交流センターで、町特産のイタリア野菜の紹介とそれを使った料理体験(ピザとマフィン)を地元の吉田さん(ジャパンハーブソサエティー)を講師として開催されました。
- ◆ インスタグラムなどで募集し、初めて参加する子がほとんどとのことで、最初は他人行儀だった子どもたちも野菜の説明を聞いたり、一緒にピザ生地をこねたり、トッピングなどするうちに友達の輪ができ、付き添いの保護者同士も会話が弾んでいました。
- ◆ 当会は、柳井市福祉圏域を活動地域として、子ども食堂にとどまらず、学習支援体験教室等により子どもたちの成長につながる居場所づくりを目指しているとのことでした。



▲ わきあいあいのピザづくり

団体名 みんな食堂アルトス (下松市)

代表者名	佐山 芳子	団体の目的 ・ 地域の子どもたちを中心にお年寄りや在日外国人等、誰もが参加して地域のつながりを育み、居心地の良い居場所を提供する
構成員数	5人	
設立	2021年4月	
問い合わせ先	yoshikossan@gmail.com	

事業名 みんな食堂アルトス (子ども健全育成)

事業の目的

○ 貧困家庭が増えている中で、一食でも安価な食事ができ、誰もが自由に集える居場所をつくる

事業の内容

○ みんな食堂の開催

開催日	毎月1回(土曜日)	開催場所	カトリック下松教会	参加者	767人
内容	「みんな食堂」の開催に併せて、国際障害者デー、国際海洋デー、世界人道デー等、地球規模で課題となっている事象や事柄を学ぶパネルの展示・説明や、音楽団体とのコラボによる楽器演奏、季節の行事(クリスマスや餅つき)を実施				

事業の成果

- 幼稚園児から小学生、中学生、お年寄りまで、参加者が多様になってきた
- 参加者は、ボランティア学生等と交流することで、表情が明るくなり、のびのびとしており、地域の交流拠点としても定着しつつある
- 様々な団体とコラボしたことでつながりができ、活動の輪を拡げることができた

現場活動レポート みんな食堂アルトス
日時：6月15日(土) 11:00～/場所：下松カトリック教会(下松市)

- ◆ 当会は、居心地の良い居場所を提供するため、月に1回、「みんな食堂」を開催しており、当日は、11:30の開場から家族連れ、子ども同士、高齢者同士など多くの方が訪れていました。
- ◆ 当会では、毎回テーマを決めて食堂を開催されており、今回は6月8日が「世界海洋デー」であったことを受け、「豊かな海を守ろう」をテーマに、県内各地の海岸ごみの状況やプラスチックごみを誤嚥して死んでしまった海鳥等の写真が展示され、その前ではボランティアが、一人一人が環境や生態系を守る意識をもち、小さなことから実践しようと呼びかけていました。
- ◆ 海洋デーを意識したイルカのカレーや海の泡をイメージしたゼリーも好評で家族や友達同士で笑顔で和やかに食事をされていたのが印象的でした。

イルカのカレー ▶



▲ 海洋デー パネルの説明



▲ 家族や友だち同士で

団体名 猫幸の家 (柳井市)

代表者名	小山内 菜摘	団体の目的
構成員数	7人	
設立	1989年12月	
問い合わせ先	kwmr.natsumi@gmail.com	

- 柳井健康福祉センターに収容された犬猫の救助、繁殖現場における猫の救助
- TNRの実施。動物の適正飼養の普及啓発

事業名 保護猫活動地域推進

事業の目的

- 人間と地域猫が互いに住みやすい環境とするためには、地域の理解や里親が必要不可欠であることから、啓発と新しい出会いのため、地域に向けた情報発信、コミュニケーションの場を創出する

事業の内容

○譲渡会

開催日	①6月30日(日) ②7月14日(日) ③2月22日(土)	開催場所	①保護猫カフェ「メルという名の猫」 ②③専心寺	参加者	① 70人 ②200人 ③200人
内容	保護猫の譲渡会、フリーマーケット、キッズスペース				

- SNSでの情報発信、野良猫保護のお手伝い、里親募集ポスターの作成等を実施

事業の成果

- 年間で、37匹のTNR、24匹の里親への譲渡ができた
- 市内での定期的な譲渡会の開催等により、保護猫活動について柳井市全体に周知ができ、賛同、応援の輪が広がった

活動活動レポート 第2回やにゃい譲渡会 日時：6月30日(日) 10:00~/場所：保護猫カフェメルという名の猫(柳井市)

- ◆保護猫譲渡会が当会の近隣にオープンした猫カフェで開催されましたので訪問しました。
- ◆譲受希望者は、受け入れる家の確認等を行った後、避妊、去勢等の必要経費を支払い、早くともその2~3週間後からトライアル飼育を開始します。
- ◆譲受希望者の猫見学は1回5人程度で15分の入替制で実施されており、見学者は夫婦又は家族連れでが中心で、午前中は途切れることなく訪れており、関心の高さが窺えました。
- ◆現在、会のシェルターには60匹程度の保護猫がおり、病気や人への不信感等から譲渡会に出せない猫も多く、活動当初から保護猫数は減っていないとのことでしたが、今後も、可能な限り譲渡会を開催していくとのことでした。



団体名 田中絹代メモリアル協会 (下関市)

代表者名	酒本 哲也	団体の目的 <ul style="list-style-type: none"> 下関出身の女優・田中絹代の業績を顕彰する 作品や生涯を通して、情熱やチャレンジ精神を次世代に継承し、芸術文化の香り高い街づくりに寄与する
構成員数	35人	
設立	2000年7月	
問い合わせ先	satokoairlines0514@gmail.com	

事業名 U-25 秋吉台サイレントフィルムフェス

事業の目的

○次世代に向けた田中絹代の顕彰と映画文化の継承、地域の映像文化の振興を目的としたイベントを開催

事業の内容

○U-25 秋吉台サイレントフィルムフェス

開催日	3月29日(土)30日(日)	開催場所	秋吉台国際芸術村	参加者	120人
内容	<ul style="list-style-type: none"> 活弁士と映写技師によるサイレントフィルム上映 山口県出身の映画女優田中絹代のパネル展示 サイレント映画と田中絹代に関するミニレクチャー 田中絹代関連書籍のミニ朗読 				

事業の成果

- デジタルの時代にあえてフィルム上映を実施することで、温かみや重厚感を味わっていただけた
- サイレント映画を活弁士の音声で鑑賞する貴重な機会を提供することができた
- 映画人として輝かしい功績を残した田中絹代を若年層や下関市外に発信することができた
- 県外からの来場者もあり、山口県のツーリズムにも貢献できた

活動現場レポート U-25秋吉台サイレントフィルムフェス
 日時：3月29日(土) 13:30~16:00 / 秋吉台国際芸術村(美祿市)

- ◆下関市出身の田中絹代が活躍した時代を中心に「日本の古き良き映画」を次世代に継承する「サイレントフィルムフェス」が秋吉台国際芸術村で開催されました。
- ◆メインターゲットは子どもから大学生までの若者(「U-25」)でおそらく目にしたことがないであろう16ミリと35ミリフィルムでのサイレント映画の上映などが行われ、ロビーでは大小様々な45点の田中絹代のパネル展示も実施されました。
- ◆ホールでは、田中絹代に関するミニレクチャーや、生涯を描いた書籍の朗読が行われたのち、プロの活弁士によるサイレント映画4本が上映されました。
- ◆「国定忠次」の映画では、有名な赤城の山の一節を実際に観客が演じてみるワークショップもあり、大いに盛り上がりを見せましたが、活弁士とともに無声映画を観る貴重な機会となりました。



▲ 活弁に挑戦

団体名 The beginning of the art (山口市)

代表者名	井出崎 小百合	団体の目的
構成員数	12人	<ul style="list-style-type: none"> 次代を担う山口の子どもたちに音楽に触れる環境、技術を学ぶ機会を与え、よりよい音楽に触れる環境づくりの一助とする 山口市出身の若手演奏家たちの演奏する環境を整える
設立	2014年4月	
問い合わせ先	zettai.tanoshiii@gmail.com	

事業名 Percussion Ensemble “CROWS”山口公演

事業の目的

- アマチュアの打楽器奏者を始め、山口の音楽愛好家等より多くの方に一流の打楽器アンサンブルを堪能していただく
- 芸術村の施設環境や豊富な設備を活用して新たな「打楽器アンサンブルらしい」コンサートを開催する

事業の内容

- Percussion Ensemble “CROWS”山口公演

開催日	6月29日(土)	開催場所	秋吉台国際芸術村	参加者	158人
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東京を中心に全国で活躍する打楽器奏者により結成された打楽器アンサンブル「Percussion Ensemble “CROWS”」を招聘し、コンサートを開催 				

- 出演者は4日前から芸術村に滞在し、リハーサルや創作活動を実施
- コンサート前日に山口市立鴻南中学校でクリニック、ミニコンサートを開催

事業の成果

- 施設や立地を生かし、「日本初の新しい打楽器アンサンブルを作る」という出演者の理念の下、滞在型で本公演に向けての音楽づくりを行うことができた
- 山口を中心に活動している音楽家との交流により、相互に刺激を受け、今後の地域での音楽活動の発展につながる機会となった
- 中学校での活動では、普段なかなか見ることのできないプロの演奏に触れることができたこと、演奏者も生徒たちの音楽にまっすぐな姿をダイレクトに感じる事ができ、充実した時間を過ごすことができた

活動現場レポート

Percussion Ensemble “CROWS”山口公演
日時：6月30日（日）16：00～／秋吉台国際芸術村（美祢市）

- ◆当会の主催により山口県で初めてとなる打楽器アンサンブル“CROWS”の公演が秋吉台国際芸術村で開催されました。
- ◆打楽器奏者のみで結成されたバンドに興味をもたれたのか、県内各地から来場者があり、観客は約200人、1F・2Fともほぼ満席の状態、年代層は小学生から高齢者まで幅広く、10～20代の若者の姿が多かったのが印象的でした。
- ◆演奏会は二部構成で、第一部はCROWSのみの演奏、第二部は山口県出身の音楽家とコラボしての演奏でした。
- ◆打楽器といっても、楽器が木、鉄（金属）、プラスチック、動物等の皮を使ったものと様々で、それぞれ音質が違うほか、普通に「叩く」以外にも、撫でたり弾いたり色々な叩き方があり、打楽器による巧みな技法を凝らした演奏に観客も大いに満足された様子でした。



「ご寄付」のお願い

当財団では、企業や県民の皆様からの貴重なご寄付により、地域づくりをはじめ男女共同参画、文化など、幅広い分野にわたって県内で活動している県民活動団体を支援しています。
当財団へのご寄付に、ご協力をお願いいたします。

寄付の申込

①又は②の方法でお申し込みいただけます。

① クレジットカード払い

右記2次元コードから、決済手続きにお進みください。



② 銀行振込

手数料無料の専用の振込用紙により、最寄りの銀行からお振込みください。
(振込用紙は当財団にご請求ください)



「賛助会員」加入のお願い

当財団の取り組みを応援してくださる賛助会員を募集しています。
ご協力をお願いいたします。

年会費

2,000円 (有効期間は、入会日から翌年の入会月の末日まで)

申込

随時お受けしています

申込方法

① クレジットカード払い

右記2次元コードから、決済手続きにお進みください。



② 銀行振込

手数料無料の専用の振込用紙により、最寄りの銀行からお振込みください。
(振込用紙は当財団にご請求ください)

①又は②の方法でお申し込みいただけます。

※会費の20%を、当財団の管理運営費に充てさせていただきます。

■当財団へのご寄付や賛助会費は、寄付金として税の優遇措置を受けられます
詳細は、当財団へお気軽にお問合せください (☎083-929-3600)



発行 令和7年(2025年)11月



公益財団法人
山口きらめき財団

YAMAGUCHI KIRAMEKI FOUNDATION

〒753-0021
山口県山口市桜島三丁目2番1号 山口県宮野庁舎2F
TEL 083-929-3600 FAX 083-924-9096
Email info@y-kirameki.or.jp

